伊地知文庫
文庫20
243

文庫20
243

支連歌ハ二句ヲ離ルヽヨリテ古今
物語ヨリ及ヒ
古詩文章漢故事ニ
付合ヨリ用ヒ
乃人倫ノ
ニ
ト
ハ
連歌ヒ
ヲ
ヲ
ヲ

[redacted]
[redacted]
[redacted]

付合乃事をはじめ、ほそ
そのよしさしの書とめ並伝のことを今
まで歌をそえて四季神祇釈教恋
述懐人倫禁庭雑山類水辺奥地
乃部立貧歌木草雑物の次第
連歌安心集と名つくるところなり事甚
いろはにほへとちりぬるをわか
弥生廿日の暮雪詩歌物語故事
の類生所たしかならぬ附合のみを書くなり

寛保三年戊四月日　安心院　栗門雪清

目録

春之部

若水　氷様　白馬　賜弓　若菜
若草　芹　薺　蕨　蘆　荳　芽新　芽花
女菜　寸黒芹　東風　春雨　春月　殘雪　友待雪　仏別
母子草　寸黒芹　東風　春雨　春月　殘雪　友待雪　仏別
佐保姫　糸柳　陽炎　燕　雲雀　蛙　白鳥　蜂　蝶　紅梅
初桜　遅桜　八重桜　大桜　枝桜　唐桃　志だれ柳　曲水　三月盡　家桜

夏之部

更衣　四月朔　鵜　菖蒲　五月雨　未摘花　茉莉　立夏
樽　花かつみ　未摘花　茉莉　立夏
床夏　撫子　石竹　百合　糸陽　水葱　沢瀉　菱　海松　蚊

蓮 瓜茄子 竹子 水鶏 蟬 蚊遣火 蟻 鮎 繕 築
扇 氷室 泉 清水 白雨 納涼 扇 疫

秋之部

七夕 稲妻 一葉 桐 柞 槿 檀 楸 薛 楓 椎 栗
柿 荏 擾 葬 蘭 刈萱 月卅 雁 忍草
思草 芭蕉 移 蓋 月卅 雁 忍草
あら萩 放生 司召 秋月 言 秋月夜
居待月 寝待月 十六夜 有明 廿日月 夕月夜
松虫 鈴虫 蟋蟀 蛬 蜾蠃 朝 蜩 蜘蛛 蠨蛸 玉虫 山陵多 小陵多
増子 鵙 伯労多 略

冬之部

冬月 風 時雨 雪 冷雪 霰 霙 炭竈 埋火 寒 冬明

仏名 到冬 歳暮 秋沙 眇 氷魚 供 宋漬 神楽 燦 諷物 綿

神祇部

祇園 社 瑞籬 朱玉垣 鳥居 注連 千木 片削
瞞 祝 宮 川社

釈教部

佛 行 悟 剛加 其暁 寺 室 鹿野苑 念珠 数珠
黄泉 霊林 六道 彼岸 石床 山伏 優婆塞 尼
楞嚴 蓮上

述懐部

翁 隠家 逍世 雲隠 笠雲 袈衣 椎 柴袖 墨染袖
塚 臭橡 卒塔婆 死出山 地獄

妹 背子 吾妹子 婦人 他妻 妻妻 柱女 亲君 嬬
化人 一面笑 待 別 逢 不逢 恨 物忘 欲 偽 物思
見初 澤衣 立名 記念 忘形見 古 為云 爰 私 悲
垣見 情 移香 文 脳事 古言 言を絶 通路 下
紐 おほけなき 及ある 親さ 原中 中立 をおくり をはり
上陽人心 王照君心 陽貴妃心 秦夫人心 陵園妾心
人倫部
人兄 武士 吏民 健夫 奴 國栖 總角 嵐子 草刈
思ひ 友を弔 友を慕 父母 兄弟 賢文
禁中部
帝 大臣 禁中 雲上 官位階 近侍 藤姑射山 四町

殿舍 釣殿 居所部 隣 囲 答屋
山類部
島 端山 山守 山姫 山彦 洞 林 岨 九曲 枝折
水辺部
笆 柵 水車 堰 筧 井杭 瀑 温泉 潮 舟橋 岩
橋 丸木橋 小舟 藻刈舟 渡舟 入海 貢舟 栄舟 艘 朱ぬり舟
入江
魚之部
魚 鯛 鰯 鯉 鯨 鮑 貝類

亀 亀守 海老 蟹 蛛蜘 蝙蝠 藻ノ住虫 蝸牛 白魚
諸虫

鳥之部

鵜 鷲鷹 鶚 鸕鷀 鴛鴦 雀 鷽 水鶏
木兎 鶚 鴉 火焼鳥 鷺 諸鳥

獣之部

訛る 兎馬 駃 秣 餞別 猿 鼬 犬 狐 猫 兎 牛
猪 熊 虎 諸獣

木之部

梨 椿 桑 檜 梶 槻 拍 扮 掬 胡桃 槙 蔦
榁柴 馬酔木 一松 松村立艸木 諸木

草之部

薄 忘草 荊 萍 水蔭草 莫嘉菜 日蔭草 実うつ
玉蔓 尓古草 藍 壁生草 粟 笹月 射干 稚 李艸
仙翁 山橘 浜ひ 木賊 藁 蘭 茸 諸草

雑之部

天日星 横雲 朝 黄昏 天人 鳴神 虹 嵐 雨
祈雨 急雨 岩屋 巌 水柏 真砂 小砂石 小調
政 元服 本結 白髪 髦 管絃 琴 四緒 笛 詩
舞 諷 碁 富 尤 迁 市 物見塲 方遠 唐士
筑紫心ヲ 吾妻 越訛 田舎 鄙 鄙都 産養
硯学 手習 草紙 太刀 剱 弓 絵 杖支頬 猶
鞠 金 宝 屏風 股肱 薫 雛 小手巻 調布
竿 鋤 土産 茶 爪木 薪 埋木 松火 麻衣 裘

糸 万の吉哀 蓑 家風 塵 東西南北 繁る治
千歳 ルと一 合ふる 裾野 壮を行 鏡向 鐘音
蓑 ふるいやし 夏よ宿世 鬼 於四十 五十 六十
七十 八十 九十 百毎

春之部

一 雪を喝 世乃治 ゆふう
年中 雪立つ 九重 命の終を思
雪を喝と云句ニ 賢に命乃終をうれ 呂隊

本令是にて

一 若水 立春 氷解 心も宗 池 河
千載 君くめみ一川を ふるよむ千代の初もと
山家 ほけを出るそ川を氷のまよ春くほとよくまれぬる
風雅 小竹井をくみ若あよ汲をめみあへむふ春きにくれ

一 氷様 立春 治る世
年中 雪ふ知年ふきのふこる世の氷池乃水の深よ例 珠

立ある三月の比のこのために設ける仮の代を申さ

一歌　卯杖
年中　百敷乃のつかさにまゐる民のこゝろも祓にまか

一白馬　雲井庭　階　野の下草
新六帖　足引きまつるとのけつるめをしるしにけさ引る司の郎
家集　松乃柴のなかるゝあまるをもやる日あるこ
夫木　ほ乃山雪ゐの春よりはじめてもふみ渡る白る

一賜宴　九重　祝云　雪　酒肴　数奏　恵ある世　左近
年中　八角知君のおほきまへにあるいにしへ名ある人ゆき

一賜弓　小垣内　麻呂　弟
大文人
梓弓春の日くらし
協川　法人乃黄よりもなほいつるゝ
年中　あつさゆみ引連てのあるじ
あつさゆみいその司をひき連てのあるじ

一兵衆　難波　春日　竹園　住吉　布留　小垣

百ふあるふ乃ふ乃ふ乃

みち哉　朝日山田子定雨　吉野　玉川志賀
志ぬ雨　秋田　いさ川湖　朋原　飛火野　小松　外校
営　雅子　還七女　かけろふ　彩人　梅　小山田　雪崖　奮
依保姫　その為　雪方　め布也　雪拂　地雪人　渋雪
綾の垣根
ねもり笠もち一まち寺成める残つゝの梅もやも咲ぬ
焼原やおゝへたいくゝ雪の深の地をすゝみに橋ゝをかまんためのわく〳〵前姿よ
かくなでたゝる雪ゝゝゝ　前草言
春きつゝ八皆ゝなふて成ゝる雪ゝゝゝ　前草言
こゝ春の二そ梅雪ゝとに萌出きとも初人も
一　女菜妻恵見又ユコトモ芹ノ名又ゝゝトモ末方ノ　君ゝ為　深山辺　雑子　小野　鳥羽田

末
門
松葉

沢邊
神ゝれつゝおゝ田ゝくゝろよゝくゝのゝをつゝ営神をぬゝしきゝゝ
綾の女ゝ山田よゝくゝのゝをつゝ営神をぬゝしきゝゝ
みゝれ降ゝ地乃荒田よ恵見橋と祖ゝき也ゝ妻ゝゝ経と

一　芹

新千　八瀬川　桜井宝　おゝ田　中川　春月　志賀　あゝ田
風雅　路ゝ　営ゝ川　岩　雪水　筏　雪消　黒塚　櫃
苑玉　おゝそゝ雪ゝゝたけゝゝ
新千　いゝゝそゝ長ゝゝゝゝゝ橋ゝ芹ゝ
末　流ゝゝゝ芹ゝ出ゝ雪ゝ白根ゝ橋ゝ永祉ゝ雪ゝ消ゝゝゝ
芹つみゝ乃田ゝ沢水ゝ橋ゝ永祉ゝ雪ゝ消ゝゝゝ
神垣やみゝゝ川ゝゝ芹をつゝまゝもゝゝ祉ゝ

門　玄雨の中を火打ち人ゝを先立ましまして
千載　いくそたび栂の尾よ掏芹の
家集　かき衣笠山よせ下つ三神よ向ふなるも也

一萩　鶯　野上　をし指　故郷
支木　小萩生ふ花咲ぬ秋ハ今ぞ紅葉ちる
門　庭ハ面よなつなの花ハ
門　眺望　山高み林下ハ里を尺渡さと四方ぬ指そなきかや也まし
遠望樹如　立薺　礼記云蘼蕪死麥秋至

一巖　なるひ　吉野　布留　武蔵野　志めし系　矢田野
小野　住吉　高圓山　宇治　書目　舟出　富士

一笹　小野芝生　石田　伏見　並出　小野　布留　大系　奈良
三笠山　春日　朝原　伏柴　山吹　花巻　山女　芽子　雉
手枕　草枕　浅芽　蕎田　九重　蓬　仮寝　古池　妹
垣根　荒ふる宿　露掃ふ神　七夕

玉吟
支木
門
苑玉
朗詠

朝原　岩根　雉子　瓜木　山畑　柳　篳篥　外山　炭竈
木下　世捨人
ふるゝと萩の焼系かれ行まに巌をう析
ト立一本ハ行園のさゝ原ハ辺ハ行る駒
山伏の石よりおぬ早ゐ系ハ雉ハ
山根ゆ打て山路の海るゝ系ハ
紫塵　嬾　鼓人　拳手　碧玉　寒芦　雛脱　嚢

愚案　葦つゝ水くの末ゝ宿うれを衣をうすを月ハのりて
〃　そゝれ搞そゝめ衣妻を手ゝかゝをよ〻俊子月卅のも
未木　老めゝを花の散よあ〻俊〻山よ可ゝれをつまんとろ四よ
三體詩　秋館池亭荷葉後　野人籬落萱花初

一芳花
真帖　君うめ示ほも玄の地にぬるつゝとゝてませ
新六帖　ゝの〻八芝生ゝよつゝれぬきうめつゝこ〻八子ゝくゝるにせん
千仙　つ花ぬく石面のゝ地のつゝ萱句ふおゝてハ豹もゆるゝ
未木　いとおゝ〻やまゝかゝをの保うちハて子ゝ焼のゝひまゝ花ぬく
〃　にゝれぬくゝ行地の衣つゝ萱ゝもむゝさ花ぬゝ子
〃　つ花ぬくゝ地ゝをあせめゝをさゝろ可ゝれて咲かゝりぬる

〃　雨のふる地のゝゝふゝ子ゝれぬくゝ地ハ成ゝ子
一芳雪（花父を指ハ武花也　秋し）　廉　辻雨　萩浪　萩野雪　蘭
新古今　冠　見初
未木　つくふもむゝさゝをうゝ名かう〻ゝ人ハ法ゝ地
名寄　ゝの衣ゝよゝ地の素豹を草のかゝれにつきくゝまり
むゝさゝの花ゝふよゝ地の花春の父さくむつまり花ハ

一芳雨（刈ハ友ゝ和ゝ浦　ゝゝ衣海　ゝゝ浦
名屋　友
未木　陸奥の色ゝゝとハゝ
万葉　つの将ゝ迫ハゝゝをゝ地ゝ雪も衣ゝふ
ゝの友ゝれゝゝ人の友ゝれゝゝ衣ゝよゝ衣友ハゝゝ

おまえ行摩のうらもも川つく〳〵砂よせてうるおえる川

一春下　未末　行行　佐々一舟　矢田部　弓
棹姫の笠かよそふ雲つく〳〵雲うえに雲雲ハ
行山ハ後ろよりよせ秋を神一宝のうく〳〵花

一野老　未末　捨を
人ハ余も谷山ほうるとハあ〳〵とう思ふ
春の野ハところ求むとハいまろハ二人ぬそうみてうるや君

一母子草　淀野　もとの　未末
君うこやうらいまろの事ハよろこ摘こ

ちるもみぢやよもハ月を放めむ〳〵なふ永宮の桃

一寸黒ゞ　川　後ろを
小堂原ところ下ハまつまでうるく露ちの朝
雲ハ雲の立ところ花芽角くめてみ　左門正朝うハさめ子

一東風　春日　雨気　氷室　浦舟　霞晴　未末　川　川
佐保山　牛宮　潤川　梅　雪　春の父　氷解
雲ハよそうるやこら吹風ハルうハ春雨
霞つく消よそうるやこら吹風もう永
手ふれ浦ま泉郎の焼てふ指ふ海の烟吹けつこら風もう永
ふた風のまへ打ふけてふ雪消てぬ大山辺ハ里

一春雨　古安山　鏡山　常盤山　朝永　桜花　柳　木芽
万　　萌　百千鳥　燕　蝶　蛙　苦思　相　吾妹子
後拾遺　　春雨のいやしく降るよなほ梅花いまだ盛りなるらむ　心
玉葉　　春雨のいやしく降るよ秋萩の下葉もうつろひぬべし　水の面よ抱乃錦をそへてこそ
愚草　　春雨のいやしく降るよ花の色はいとゞ深くなりまさるらし　月の緑
未木　　春雨のいやしく降るよ柳の糸のいとゞ乱れまさるらし　震庭　寄書心
門　　春雨のいやしく降るよ梅花いまだ盛りなるらむ　水の面よ秋萩の錦をそへてこそ
　　春雨のいやしく降るよ柳の糸のいとゞ乱れまさるらし　月の緑　震庭　寄書心

一春月　岸广梅　花筆　緑　朝永　桜　柳　木芽
玉津嶋　　春月の霞の間よりながむれば花もまばらに成行くものを　震庭　鐘震　釣竿　泊舟

一春月　風雅　　春月のおぼろ〳〵と霞よりいでぬる時ぞ山ぢ成ける
名寄　　春月のおぼろ〳〵と霞よりいでぬる時ぞ山ぢ成ける
未木　　春月のおぼろ〳〵と霞よりいでぬる時ぞ山ぢ成ける
後拾遺　　春月のおぼろ〳〵と霞よりいでぬる時ぞ山ぢ成ける
　　春月のおぼろ〳〵と霞よりいでぬる時ぞ山ぢ成ける　震庭　寄書心

一残雪　清滝川　岸广　芳花　緑　朝永　桜　柳　木芽
　　村消て雪もまだらに山ぢかな　震庭　寄書心
門　　山ぢかな　震庭　寄書心
拾玉　　山ぢかな　震庭　寄書心

一友待雪　梅ヶ枝　春の日

風雅　桜花咲くや三春の山土左まり川雪とくれゆく
海機　雪入れて〳〵老をなげきつゝ
湖川　卯花の比なる頃ひそかに友待雪ぞ降りそふ

一佛別　灯幽　寺仕末　浪漁　海世恩　鐘の声　悩人烟　橘花
纖於老　二月や菊なき小一妻を
玉泉　〳〵八こゝ半の妻八夕霞消一〳〵の余波とや紛ふ

一依保姫　萬城　天青人山　菱田池　紫　雲月　糸花　青柳
纖横　浴雪　帰厂　山横　名栗　緑子

後漢撰　依保姫の花父衣妻を
玉泉　さほひめ打これ髪のお
城川　ほろ姫の柱ふら奥山の青れ〳〵
玉吟　こゝろこゝろ一ほもや
捻　揮姫八月よく降雨
未　山もせに咲ころ一〳〵
集　竿姫の染一緑や
一糸花　萬城　天河　中雀　月影　花盛　永日
竿姫　妻訪　帰厂
城川　玉泉　緑のそ　妻地　霞の衣
捻　妻のくる朝の糸ゆふ

玉吟　古今の庭乃吉柳花春て形もなけれよあそふ糸ゆ
未木　ふまほ〻雨のうまよふみくさ雪きて雪の降〻百待て松ふ糸ゆと
〃　津の玉乃昆陽のあしの泳よ松ふ糸と体なうんくう

一陽焔　春雨　久曾　稲妻　山桜　白雲　古草　春日　文字
後撰　蕨　菱　虻　蝶の糸　文月
後撰拾　かけろふもえもいはぬ恋ならし春行日〻みるそはかなき
古六　霞行日乃みるそはかなき
未木　まよふらんとそ思ふ人の心も安き春の霞〻
〃　かけろふよ乃ほのちる玉も世哉ふ
化よふこそ乃ふ打かけろふよ乃夕ふくれ風よはやせ
三日月乃影よかよふ
かけろふの久ふくれ霞人の弓槻つけよ春たなひく

一燕　陸尸　古里　柳　卯中　宮　軒之　春雨　小田　家居
帆柱　門田　梁　燕双栖
風雅　つえつ〻めいとゆふまくれて春日のとけき人気もなし
未　谷おれつ〻ふるうんつ〻めいとゆふまくれて春日のとけき人気もなし
〃　谷おれつ〻ふるうんつ〻めいとゆふまくれて春日のとけき人気もなし
〃　おれそ後の春ま〻油わかれ燕乃足よはけー糸筋
愚草　二月の半にもなるとおもふそもきくつえつ〻めいとゆふまくれて
杜律　をたえめおれなひ乃ふ琴乃笑ハ習ふ世乃
三體　自来堂上燕　相親相近水中鷗
空屋孤螢入燕巣

一雲雀　春風　春草　霞ゆ　暖炎　名月　暖芝　水鶏　暁霜　荒野
　　雲雀あり　陽炎の　飛火の神　ゆく　ゆく　行く　行く　行く
　　大和路や　春の　行く末を　行く末を　行く末を　行く末を
　　ひばり鳴く　垣の　行く方も　行く末も　行く末を　行く末を
　　ひばりあり　陽炎や　行く春　行く春　行く春　行く春
　　雲雀あり　陽炎や　行く春　行く春　行く春　行く春

一蛙　六田　神南備川　三輪　井手　堀江　玉川　小山乃池
　　泉の里　吉野　飛鳥　石上布留　音羽　小倉沼　栗津
　　飛鳥　田中井戸　大沢の　千里　零山峡　かじか
　　柳蓮　菱　鴨　笹　篭　名立　蒼　谷川　萬　山田

万　夜半　舫舟　稲荷　石井庵　おやめ　荒　夜寒
風邪　秋六　柿本　古里　岩ばしる　清水　さらしな
門　愚茅　小集　落　三體　田家　無五　行

花　舫舟　稲荷　石井庵　おやめ　荒　夜寒
柿本　古里　岩ばしる　清水　さらしな
かけ川の　吉野川の滝の上の　つゝじ　芍薬
さゝ波や　志賀の　都も　うつろひぬ　ほろほろと
商代よ　心のこゝろ　をまねる　蛙　うらやまし
勤王と　泳しも世に　英　蛙の心　我
庵つゝ　垣ゝも　ゝぬ　あり　寺　ぬ
五月雨に　ま　の石よ　蛙鳴く
水　て　軒ばの　かけの　声きこゆ
家　お　舎　一　住の　川よりに　あれも　物そ　うき

良鳥　一説　二上山　三室山　音羽

古八谷雪万

古山来よ美いきてなく谷雪氏おけそゆんうゆをそ思
二村の山かそもろむ志のめにゆぬと告るゆるもれ声
吉田山三谷の北へよ採苑来の咲ろくれ向雪の（下略）
む三川よ流もろめぬ魚よる井杭しそてぬさこそれろそ、
氷も吹老よやつろく魚雪氏おそて砺一に音谷れぬ雪

一蜂

東玉二八蜂ヲスカルト云

愚来　うたて世を古屋のおよ往そちのさてに別ぬそ物ろ
未　云されぬそ雪の子祝ほり一妹よお守来にぐれ
三體　指蟻相逢如偶語　園蜂速去恐違程
杜律　樹　蜜早蜂乱　江泥輕燕斜

一苗代　井手　岸舟　雑波　春俊　細谷川　畠　池畳　覚
里浦　苑　赤　魂　く　ろみ　柳　豹　こ寺
花桜　竹　雲雨　芽花　注連　驚　流　氏集
芭房朝下舟後守ま下ろくろつ川ま家

今朱
君う一や花のおの花をろ苗代ろよ、そくこそんや
古ひよれも老よろろれ苗代の水ようろもろめ翁ハ
苗代よ出苑花の名なろうまくか川の春ろなう原い
舟をあ川物山苑よはきいさ子すか面の小雨にくく拾ど

一紅梅　新羅　當　山法　雨　吾妹子　肖子　詩　古山里
綾右　里も山を旬ひよくろれる舟のこそめ氏梅の花乃下風
新渡右　紅よ旬へ乃味ろ神ろ十ニ下杉まうくろ原梅乃を川苑

古六
月清　紅と雪とハをに似たれとむめの花よハ軒かうひく
未　　春の池の汀の梅乃夜ハ〳〵よりとれ舞くて宮さま
六家　匂ひたおらなくきのを梅乃えの末つむ花の父よ
　　さくめるきつゝ鳴あとこ永宿乃八を紅梅の花論
一初桜　ゆうべ人こゝん人志乃へ春霞立田の山のさくら花
新古　雅ハ人振さ汗そうん守ろ序作ろよの神桜哉
未
一糸桜　古き砌
玉栄　おなさき桜これる糸さくら柳ろ枝ろ吹うとそて宮
風雅　君代よおもかひおろ糸桜哉のをもくおてかさうん

未　　ときもその名乃桜の山乃糸さくら序哉うとそて宮
〃　　向川やちろよ山寺氏糸桜哉の徒もそ君やかさうん
〃　　あすもこんきてわ桜の枝細き柳の糸にむ玉ぼの桜

一八重桜　千年池　竜田　春の衣
未　　万代の春よもの〳〵八元桜哉
〃　　うゐ〳〵桜る永の仙宮乃やへ〳〵さくら春の日吉めよもち哉
〃　　あをによし寺のあたりをやちにかさしたをりてかさし八重桜
愚考　八重桜宿のさうちのあたりをうゐ〳〵しくれをし春のひうひうそよ〳〵ん
狭衣　一をつゝ匂おこせよ八へ桜こゝ吹風乃たよりも春をさそ
六帖　ふれをゐ木の花も敬果て八重咲かうつき桜の永

一火櫻　淺乃山　高さ丈　春の山辺
彩六　みよし野のさくらもゆるす春の日に今盛なる火桜の花
〃　秋を社焼といふ山焼
未　しかるにこのほどこうれてもおゝきなる富山なる火桜の華

一庭櫻　ひもの屋
未木　矢矧川上村よりたて原かへ
彩六　ひつ川の岩よ白へ原かへ桜ちる社春のさかりなれ
〃　樽号矢矧のひもの屋のうちさき
〃　庭前の花桜春面白く風うごきなき
〃　妹うき原也へむかしの人もあり

一満櫻　たゞひとえ紅の花のさかりなる
山家　おくてや駒もかくれぬ古里
未　霞立くれの山のうすゐろ
〃　先やゝ青に咲つゞく山ざくら
〃　白雪もゝ立かくもと紅の満花さくら山もあし

一万櫻　家よ櫻乃まうえつゞくるよりさくら
手仁　いつくと極つゝくれそうさくらも春ゆく時

一宗櫻　堀ごうに元屋化人の家さくら
彩古　花斗植てあるやも

六帖　荒まき原　花の宿　夜桜　うひかぶり　花の客

一　犬櫻
　まま　山ぶきよやをさくらほ（ほ）ころび大さく（く）遅くちれてうき人もかな
　躬恒　古山乃岩根よ伏をるさくら桜水をみ乃内をえ（え）こそ

一　延桜　二村山　靱原　春栄山　吉山　九帝　山号　春のかすみ
　谷妹　侘人宿　京山　肖字　名こそ関　名ごり　殘雪
　小町　布引滝　氷室山　立田
　月清　愛乃ひとりみ奥山よさくらあるを尋て遥さくらかな
　於玉　音羽山卯花垣よ遥（遥）さくら哉
　愚案　苔乃なの永行（く）春よ遥（遥）さくら哉遥（遥）かに霞山路さく哉遥

一　桃　暗戸山　吉野　天河　詠門　春苑　宮城野　垣越　山賤
　永荒　君代　春谷　鶯酒盃　曲水　歌合　仙宮　砂洲　三日月
　躬恒　ちとお象山陰のさ桃さく（く）花物とてもみん人乃
　蟬丸　羽の落（落）くれなゐのさ桃花とハこれと花もなき哉
　協川　落（落）くこく（く）山咲おこ（こ）す桃の初花
　〃　咲よく（く）岩井の水よ乱（乱）てこそ桃よさく（く）る娘りこそ
　新六　春霞立かくさんみ桃の花乃ほに若て逢こそ
　〃　人こやとまの初さ代よ桃乃花咲や三月のさくら哉
　名寄　桃乃花咲や三月のさくら哉乃ほとも今さくらあれ

浮雲　物いそ〻ぶ海の物と桃のそれ〻世よもすゑぬ滝乃白糸
朗詠　桃季不言春幾暮

一李　行山法
第六門　消ぬ間の雪とそ見ゆる山乃端の梅とそれとはほの〻一枝乃内乃ふりのそれを雪かとはかり
未　折もそよ細き冠りてふけるやうぬれる風田不納屋
履　季下　弗塑　冠

一庵桃
第六門　かつ〻ぬる雨そまつ咲乃紀乃庵りせ大ぬよはおもぬ春夜ぬ〻
てとよもやかう桃の物をそれとのさ〻

一老木柳　圓栄
万　百年の大文人のかつ〻もの志〻り柳ハ又れとあのぬかも
風雅　きのふけふ世ハ乃とうよ〻に仕保姫ハ志もとも柳のかつ〻
堀川　浅緑春のとうに仕保姫ハ志もとも柳のかつ〻
於玉　汗衫の志〻り柳の上雲綺ま書物ぬ乃れうのぬ
未　ほと〻ぎ柱一色乃そのの丸柳志〻りにぶとお枝もそ

一曲水　ふつの後　こう代泉　詩歌　老宗　みつ〻う　桃碑
未　桃花宜
　　夏花をくのの雨の光よ〻陰百代ぬ原春乃ルうよ

新古　　なをうた帋をもてくきこと日月乃ゆく山のさき
〃　　　ゝ乃久八日をのこれまつに春も行めること日月乃新
〃　　　盃のすゝられつゝて庵人の舟乃り亜細乃くふをしる思
〃　　　かき春うた巴の字共水乃絶さて一をよみこゝ写春共乃盃

一三月尽　　花数々　名残　詩歌管
朗詠　　雨林しき心
於を　　咲花もちよめる宿八行春の古里と社ちぬるゝ
作分　　めれつゝさみて行つる年の内よ春八いくゝもあらし
ら模　　れしめとを春のかきりの秋日のタ空ゝ之風よりろう那
〃　　　音なみあてとゝにゝ花の日を花の旅よりくふゝさ
留春不用関　城固

六更衣　　夏之部

天香久山　夏乃川　山桜　大木人　花の枝　蝉羽菱　橘
花　橘　納涼　夕立　進位　苔地絶ふ
尽きる　世を捨　無依　墨染衣　山井の水
山水
夏ごろも　夏ごろもうつゝ山の初花ゝもゝかさなるゝ
ぬぬゝ起別行船ゝ共ゝおもひ起ゝこゝもう那

於毛　ホトゝぎす　もゝとせ寄ぬ去も有ぬと　いふぬきてゝる夜ぶ
　　七久保に深し　秋ふかし　ぶれて云ふうにふるもあるふ

一四季国恋　はや夜のふ　村雨　いち笠雨
深夜ふ　志のゝめや君も吟ふんかひもなく四更の田毛に心かよひく
仔野　名のみ河志ての田毛いけさをく庵おまへとうとまれぬと

一鶉　巨勢の小山　ひぐらし
古ふ　年八ふにぎわり海る声ふれくれめつゝく鳴くきつゝ小
萩ふ　志小山ふのセふれもふれ海ふちるなきつゝれ声のゆにぶりのて

一夏月納橋蛍　久立波　涼　扇　堀山茂

玉栄
古六
於玉

当るよわ海るふたま久閑おきみゝう夜八月
鶉の岸とい数ゝ吟ぶ切て夜の秋海る月ふかるふい
月きに海るふたも発まに明てゝ夜ふぬる夜ふ

一卯花　宇治　立田　玉川　納　水鶏　姨捨山　稲荷山
伏ふ　賀茂　二見浦　七夕　布留　白川　逢坂　岩清水
音羽　木下閨　橋　鶯山　月夜　吾妹子　妹の垣ね　拂
板庇　夜非ふ　夜の雨　水鶏　天津神　伏や竹
洞布　夏萩　瓜木　朝日山　禁中　夜待雪
卯花の吟る垣ねよ時ふゝ　ふ鳴うぐひす声
つきて降雪ととぞ見る山桜ちりぬまゝ吟ふ和ぬ

於
ま
ㄇ

一橘

万
風
新千
載六

安於 木丸殿 井ま 志賀 大津宮 飛鳥 並ら志ね
大門 階 百敷 大君 神楽 古つま 門田 時鳥
おやめ 忍ま 吾川 梅桜 村雨 早苗 蛍 山吹
寝覚 物寂 夜長 金鈴 君ら素
時鳥 若う 春 花 風吹 家の風 新の 花
春をとめて むすひ 家 橘 年 春

未
田栖

小夜更て 花橘 風 侍人 まろかとそ
拾栗採 橘 盧 橘花 風 楓 葉裏

一葵

松尾 日吉 和多浦 天河 行器 桂 筵 神
乙女 宮人 夜衣 瑞籬 舟 榊 榊子 村雨 物乞 かさり
車 よろの水

新ほ於
愚ま
ます
ㄇ
ㄇ
ㄇ

天かけて 仏 いつもあひ
川 年の 深 一の 父 ほ
ますと 一文字 ふも 巻 よ
新 ゆる ひと 衣 打 あひ
日 山々 かさ 共 ま
神 ま 天みあれ

一祭　春日　小社　石清水　大原　平野　稲荷　三輪　松尾
吉田　廣瀬　立田　龍田　紀伊　玉椿　榊
花供　姫小松　童　嶽　松葉　勝月桂　詩人
酒　白山
綾渓
夫
川
隅川
家

祭と斗よハ　七夕　山の水口　花ハ風をいとふ心

一杜若　行沢　淀沢小菅　秋津野　伏見　長陽　歌枕
浅香沼　志賀郡　なごえ絶橋　姿池　廣沢　石上
石川の八橋　勝方田池　岩垣沼　みくり繁る沢深
変おやめこそ葛　すゞ　真薦　稚人蛛　関
世をいとふ宿ハうへ杜　おりゐ立ちかこひかこふ
北の行山下みのかきつゝむ　ハきゝわ
杜ある沢辺よ毛蟹　守をまもられ秋やちゝまん
橋姫もくみ沢のかれつゝ人をうらべきを心かハ
花のこまゐ里に咲る杜ハ雪ハ去めてでゐよ梅ゝ
別芳杜若抽心長　沙暖鴛鴦数朔眠

一牡丹　扇窓　庭　笆　蚤月蝶　猫　紅粉

於玉　　夏木立　庭の中納言　石の上にみちて久しき卒塔婆
未木　　紅の袴　事うるさき咳　ぬれ手拭　情ふかき
苑立　　折人の心もとや名とわれ　夢とうもすくめ

一樗　雫林　小雨　庁閑　賀茂　淺方杜　五月雨　氷面　あやめ
万　　白雨　九重　舟清　川狩　夕涼
玉砂　　玉ぬく　樗を　宿よ　極うえ　山杜守　うれをたんかを
未来　　棟咳　窓へ　来ぬ　くほとゝぎす　笹のゆうれ　笑や涼し
　　立やとゝろの　名木の　おもち　不二　新も　蔭し　蝉の羽衣

一花のこ　雲江　北沢　淺香沼　夏田池　芦　杜守　八重山吹
玉砂　　玉砂　鴨　旅人

一未橘花　蒸る　宿　琴　三郷　初鰹　葛を
古今　　人もわれ　をり　ハ　苦し　ふ　ほとゝぎす
万　　ふる　井の　ふる　花　ふる　ほとゝぎす
俳民　　沈丁　入門　山吹　おし　入る　ふえ　ねさよ　五月

一菜玉　菜日　納　橘　大宝　簑衣　酒
約束　　ゆふ　五月　ほと　ぬる　樗の　ほと　みち
未木　　花　垂蓮　おも　ぬる　菜の　ほと　ぬる
門　　忍ぶ　おめ　樗　雫　軒の　雫　やま　ふの　菜玉

一笈屯　汁よ焼火　音羽川　柳
大和　　　　　　　秋風
江楼　つめたかうれぬものハ夜むしの声とわかよる人もかな
まま　ハまを落ちる宿ハ笈むしの中山
未来　夜半の細谷川をてらす月
壬二　ちり雲を吹まつめる玉ぼうき　いそや物我人うきわれ
　　水もるよ淋しホー流の上に思ひをつきてりゆる夜む

一五月雨　伊勢蜜　伏見　そうた川　郡波　この浦　大井川　神の浦
木曽川　浅野　布引滝　不二　次广　東屋　志のや
吉野子　草庵　麻　浅右衛門　印旛　久し　夏椿　玉箱
入めり破　百谷　秩父人　松木　久爾　井筒　紫庵　早苗

笈花　松子　ますお　笹の　恐羊　三ヶ月　麦　為作
重宝　蛍　月ぞぬ宝　星　作来迎　独間　日数経旅　行程
淋しき心

蚤
玉楽
浅沢
ヶ仁
出家
未来
川

おもしろくハそのてふけあやめまでうり
山里の雪よハ波も、とそれ寸さへの一人のれうれ乃ふ
落滝ハそのさうさ山川も音さへのるさみ里のこ
神代よ、しとうき宝ニ人をそるよりも
五月雨のふるに人をそるよりも
五月雨の山田のおく滝枕
さうれ雨つたき落て
橋の白い梢よさうれ山ほうきて声ほるあ

一木下南　水鶏

於玉渓　五月山こもりやすらに寸火そ麻の立との下し行
〃　卯花のちるぬ限り山里の来乃下やもものこりとう思
〃　多雪も川玄城神の秋萩は未のこりけり猪しし行

一鶏（誰カ）千載　ほとゝぎす声も旨うて旭吹秋の声立つゝ
〃　うえそくら行ひるゝ林の三荒山中ままよ〳〵さらん

一麦　まセ豹幾ら荒　分面　鶏
〃　山乃川の畑より千麦の穂のくらけて物を思ふ比哉
〃　山乃荒をよ麦の秋風ちよめ紀て山鶏出のいふくまの下
　　さゝ藤一木乃下むきけるよう出て風よ秋を山畑乃庵

〃　送るよ蝉の神声ゆよりも今ふとむきけ秋と知ぬ哉
　　麦ほ二百　麦ほよりのこり小麦の穂のこうべをよするく物こそまれ
朗詠　五月蝉声送麦秋

一床夏　玉泉伏や　伏見　色鳴　彦里　残り麺根　水無月　鹿
　　出　秋隣　五月雨　玉巡　布留　色尾　岩尾　森　四若
　　舞火　吾妹子
〃　床夏の句一ツ座ハ庵主ゟ
〃　何事ぞ〳〵ハ庵主ゟ
〃　麦の何渓辺ゟ句ゟ床夏ハ〳〵ゟのくけき新そ又ゟ
　　百代ハ岩根ゟ猿さゝゝゟ
　　ゟれ君ゟよまゟの川行ゟ又ゟこまゟ家常夜乃ゟ

一柊子　ひこの鬚　こぬれ　秦良　神落川　明泉　川狩　むつの野
萱　あやめ　百合　山萩　桔梗　吾木香　蓮上　久立　帰　六月
七夕　短夜　包　暑日　築地上　そうめん
万　一むのきーこうーこうーこう

秋　人もれぬその首日のまそうまにさとよつうん娘ゆりの
門　文のあれまけこにまう娘ゆりのきつれぬ恋ふきぬ

一笠取　あつまや　文月　庵雪　萩野　夕月夜
秋之　今もうもきまも元ふこえをもん梅ーおちさい花吸ふ
門　恋もつはや色よゆ百ふおとうるみよふくよをの八重紅ふさけ
未　光雄と人おもりし川上よ吹つ花おとさるれ

一水葱　いろの沼　田中井戸　おうく井戸　杜若
秋之　姫川　こるとつ江伏田乃代かきて梅よ実れ早も
秋之　をのれこ恋ちよぬれて苗代のこるおうて下ふかう嶋ふ

一沢潟　表沼捨ハ白露　杜若
未　かつり嶋田中の井戸よ田ハ苗ふくもいまをたゆかつ江もも捨ハ智恵
秋之　山もとのあ江田乃くふ

一菱　企救池　こ路江　うきぬの沼　入江　こふ江　水葵
月清　百重　文月　蛙
未　池乃上のひーの浮もぬまてひ川よ揚る度の蓮生
舟もこ残たくもふ寒ーー雪月の乃氏菱乃舟やはゆる辺

一海松　とこ舟海　塩竈　ちくの浦　難波　住吉浦　釣舟　帰雁
秋之　入ぬる後　岩乃　雲乃　海士　映飯浦
浮も　志加

万　大淀の浦よ刈干ならめども　かゝる雪間の若菜つみ哉
筑亭　うつふよりに岩かよ松の千年を祝ふ波のよる〳〵
ケ糸　いろこの南入風よりこそ寄のやう里

一夕魚　小倉　巻堂　行器　破ふ焼小皿　綿ふ伏や　竜　蜘　山法
三ケ月　卯七　外面　寺　方人　数珠　柱子　ふ尚来　扇
おミ戸　軒　小家　車　山ふ　黄昏
愚ま　日ふ守る雪にまほろぶ心ち　一ツ小ふ咲る賤ふ行ゝ頃
未来　体もなく軒をあゝふるゝ山ふの住あをふ多魚のも

一蓮　夏岡池　行者　鷲山　勝方団　名刀　松
柱子　村梨　亭　指舟　奥花　竜　蜘　風薫　心乃水

異作　七葉
法師の父ふ死めるをそうよめる
老もふぬ山の桜よふくふいくたひ
風をふみ苔の深をふ宿志めて　年きまにかゝ川嶋等
それも栄も枕もふる庵のそふれき世とハ知ながら
う蝉のそふれき世とハ知ながら
荷をきよふ花ふハ月そふ
うれしくも老の桜乃父をふ
音羽川をたゝ入ぬ水もあり
波よ入海ふ西のふ日ふ
池ふよ藻伏来鮒乱ふ
藕穿平地生　荷葉筆過東家作竹林

法を
教を
千伝
嶋川
教主
門
玉吟
まゝ
千々
三體

一瓜　名羽　岩倉　奈良　里村　業　綾ノ荒　古畑　里人
三伝　頃門　まさ　まろう　翁文
まま　あり　石こねりにいつく白瓜のつるとよるてつまれ赤くさきん
門　三郎君のまま可笑よ千代の古原しまへ雨降のまに社前も苔
伝家　百年あやうき時のみわうりよ石おとしとつとまろうのふ
山城のこ海の瓜小面むつよりたるあとての作るの多
瓜化生　鶉

一茄子　くれとこれそうひあるお公家八様なる人のくるまに
三伝　山ぶきの瓜やを売をまに高やう於ノ荒川まち
一休

一竹子　ろくん年　寺　まさの門　園生　螢
鶯　生ある夜の竹のよハルみーうたよ我かさめうむ
まま　いう年雪のハルへもう年のまの子まうなう老と世とハまう笑
添川ノ号　今文よ仏生物ん年のまの観里よ人の乗ろ知ん
鶯雀　嶺　雷驚笋欲抽芽　夜聞帰雁生猟思
嶺　権　新竹　ぬ歩　池淺　故蓮踈

一水鶏　竹田宝　牛忘　星螢　鳴門　明石　東や君　川門　霍門
本下簡　卵も　文哉　鶏　同党　栄戸　女車
野勢　終哀くあるようにくくろう玄本の戸名よたき俺ぬる
添川　くくなよ吟てくやーうまあ戸の風浦ろう子ん名ろ老ふくよ

一蟬　千載　淺深新　協州　於西　門

思ひ〇せめてうれしきくれの春　愚李
ふる年をたゝく夕あられ　あけぬめよ人やあやめの折の移香

千居　住江　松浦山　ゆるぎの杜　衣手杜　信田杜　乳母杜
村雨　山蔭　此板　朝良　此ふし　井　面影　寺　清水　蜂
まつ引　扇　女郎花　桐葉
と聞り山寺蟬の羽衣きてなれや友山人の琴の音よりきかよ　保松風
友山人稍よ海ろ寺蟬の羽衣きてなれや友山人の琴の音よりきかよ　保松風
をもろ色てもなく蟬也ふ共もの好き世とハ知ながら人ハまつ
何とをく豹なる色て行ろところわりなよせろ宗く素
荷を待よ人ハまつ荷よ待よ人ハまつ荷よ待よ人ハまつ荷よ待よ人ハまつ
荷よ

約六
家集
松葉紙
三帖

水無月の照月ぬれしのかみいちいろ
筆ぬれこすくきを朝とてあいきうり
七夕にまつるる玉の結をぬきてあわしとうと云ふ
雲深 猿盗栗 雨霧 蟹活 蔬

一鮎

約六
門
門
六帖

松浦川 玉嶋大井 玉川 賀茂 西川 吉野 宇治 淳
柳 早蕨 月光流 早苗
山川の瀬乃木陰乃行閑よ鮎とるとくふ人多くして
き山川のほる小鮎のたてなりかくも濁世よまれ多き
鮎そ下流瀬の岩つゝ足ふも流きあやふ
朝ふ一日次をもつる桂鮎ありをそこよふもうつ

一鰷

約六
方丈

みつ川 六田 賀茂 吉野 宇治 賤 麻衣
朝夕渡の川をたゝまてこそ恋志ふんほの世もう
若川の瀬瀬もまつたゝまてこそ衣の秋とぬるゝ

一簗

夫木

多向乃よ神のまへそとよもの前の川原簗打て多
田上和歌国八川瀬ふやまてこそ家奉あれ渡孫をそ

一扇

天河 七夕 松原 綾鴛 虫狗逸門 野沢 雨 求愛 汗 秋嵐
団月 新萩 花野 勝月 夜 夕餉 別 蝉 雲 山 秋風
鵜 添伏 行く 隔居 蚊声 別 中 負 舞 笛
篝焼 名のみぬ行来 夏原 簗笹 行舟 清き原雪

青六月　春蘭子

一氷室　宇陀郡　松峠　つけ
　　延槻　枝秋　皇代編集　寄
　　谷岩仙　岩柱

芭蕉扇　梵王　墓上夜琴壺
　　班女　団中秋　扇亀

一清水　（本社ハ熱ノ）　岩代　小塩　布留　名
　　亀坂　三井　（誉教濯川　山吹　北中

一泉　（竜泉トハ色濃）　松下　二帰亭
　　玉柴
　　（滝ノイトノ）にてある泉ようの
　　ことをいふ向ふ立ぬ
　　まゝれよ秋乃初風
　　風をめぐる花宿也
　　山家　（ついみの末を）

一氷室　宇陀郡　松峠　つけ
　　延槻　枝秋　皇代編集　寄
　　谷岩仙　岩柱

芭蕉扇　梵王　墓上夜琴壺
　　班女　団中秋　扇亀

一清水　（本社ハ熱ノ）　岩代　小塩　布留　名
　　亀坂　三井　（誉教濯川　山吹　北中

蝴　柳依　電　小田　早苗　松下依　蟬　納涼
綾夢　新千　岩根　駒　苔　なみや　北ゆく清き　加茂のみそぎ
愚案　山鳥　霞　拾ふ　水面　氷　これや　文机　夏の月
綾子　八重　霧　立つ　しるべ　脚の　清水　汲む
没擬　関越　雲　法の　杜の　おん　志水　夏

一夕立　沙秋二モヨメリ　春日　十市　天香久山　高砂　信田杜　武蔵野
行器　盃坂　名羽　安気寺　住吉　三輪　淀ちよ
尾花　簗　笹　蝴蛙　山寺　蟬　芝生　蚊遣火　北分
檜柏　警　稲妻　松　一村芋　虹　早苗　百合　桂

女郎花　庵　下枕　釣舟　湖　琵琶　ほや
かき氷　夕立　浪のおと　風雅　於玉
山ひこ　雲　日影　入れ　浮ぶ　舟　志川心　夏
夕立　雲の　中より　初る　門　門　於玉
深更　雲八重　九ほれ　愚案　末々
夕立の　葉　九ほれ　雲　氷を　そゝ　作
納涼　声を　明月と　おり　こや　ゆふ　立　雫　赤く
水上に　花の　白雨　志きる　吉野の　川の　水　入まる　家

一納涼　祉　嵐　夕立　梢上　螢　急雨　網代家　宅　竹　月
於玉　湯居　涼むる　かきの　もと　一時　を　板井の　志水　汲　扨

玉吟　淀川の入江の岸の柳陰舟まち乍ら乗り乗り乗り

秋之部

富士 赤引 紅の尾 みくま 立田姫 素古海 手井庵
九重 川秋麦 麻 扇 琴 苔衣 蓑衣 初秋短夜
鈴虫 薫 岩花 池水 氷ノ手 尾花 一葉妻 沈花 時雨 巴絵川 羽ぶき
ふる袂 雁 水神 秋風歌 行合 色
万
詞花
物名
彩勅撰
千仙
葉集かさゝぎ橋の後は七夕ぬ

七夕のいそぐこゝろはたなばたの
天河たゞ橋もとぢぬ秋の風
萩の露ぬきつらぬける玉かとぞみる
織ひめの今やとるらん天河
川霧たつ秋風よ七夕つめや
むつこともまくらをかさん秋風
君よあかでいとゐの二日よ
かさゝぎ橋の後も七夕

七夕も星つゝや天河の秋ふけ
時刻にかすと思へど七夕よかりおり
かき分る梶の七葉乃四
天河岸辺のりや咲ぬ
後も舟よとを五月七夕

一稲妻 鳥羽 十市 葛城 有明 浅茅かけろふ 荒る宿 笠
山陰 外山 久爾 山伏 峯入 庭待月 花芋 庵 屋
久月夜 鳴神 秋風 陽炎 雲 うき脉
月を待くれまりの
秋風
埋火
末末

一葉　蟬　初秋　庭係ー　ひやゝ
玉栄　山風よりふき一ちらし止まりて本まさ字ほくそー乃声
未　久方の一てふつく木ずえより下西ふを秋というこ日月
〃　村雨乃吹ふ止まりて久方の窓に一てふ蓑虫のをやまぬ

一桐　霧　兎両蟬　萩　高堂　軒月　秋風　井かへ
窮　琴ノ　琴木格　冷廉山
風雅　桐のもふるくかなるてふ人を待とふ久ふと
未　窓ー〻よ桐の落つる風まち人音をぬ宮民夕暮
〃　而来や桐の木末ふ住ね民千年ハ竹の夜もかりそめ
分面ふきれ入庵ふ雨落て朝け係きそ乃音ふ

一柞　石田神　行岡　泉川　二海山　名札　大井　二村山　浮潟
〃　楳娘　秋風　岩根月氣　雁　廉　山科
〃　金葉　柞ふ岩ふくふ係鴨ふをのうまさも柏ーよふ
月陰　そそ系ふこれぬ柞の秋ふ十夕暮ふーはくふの声
未　作う山のもとまつ民様ふかふめる月よ黄ふそ乃系
松山ハ柞柳のゆふくれ寸ハふくしいてふハつて華
神山のそふその梢いち志ふくふ思ふをてふにふる下
松陰よいつまこれの傳つふ岩な柞ま川約氣や係

一極　十市　有る　文神　歌駄　玉津岡
永芳　ハ垣氣　高神

一檜　柔　〃　〃　〃

紅葉古
紫六

惠衣よ〻ゆ〻しき一もとの紅葉のうるはしさ
おもひのほか成ける山
奥山よ〻ゆ〻しきかつら
深山の紅葉とゝもにおくれ
ひくるれば雪ふりつもる

紅古

一楓
真六
まま
拾玉

宇津山 春雨 山伏 若狭
永宿ももえつるかへてそ染ぬ日の
若葉一枝の枝さしかへてや
夜衣立田の山ふもとおろしの
神山 白帆 小舟 若狭 伊吹山 落雪 宇治 うとく 雪

一椎

千載
紅六
門
紅葉
まま

椎柴 雪 鹿 秋山 拍子 紅葉 川社 花 蝉 橋
雪鹿 秋 軒 司
紅根柏ら海の根笹木打ちのぞ
いつの月にかうつろふまゝに
笹くらのみやゆきつもれ体むとも
住山おろしもろ〻も狩ゆく
いつとも深山の奥の椎

一栗
七秋
まま
門

猿
栗こそ海の底乃こと
うつろふまゝ栗ふりしきて
風よ荒るなをのさ〻ら拾ふて

う　山う智よ洛の笹そよそ

一柿　園七　旭　時雨
未　世間よあゝ入風の吹ふうゝこそ淡をる柿の梢く
書言　もみぢもる柿のうてなるふるの
門　右望入かきのうてつくそ萩よそてや明と有ム
三歌　別　白　芦花　吐　園紅　柿　葉　稀

一桂　住吉　神山　瑞籬　月新　入江　橋　寒風
俳川　晴ふ衣こゝ山のやゝに迷ひても夜ほおの月の桂と
歌集　交あれゝ暮ともあうて遊てる月入かつ共法ふかゝ

一攅　書
万　入口のこりのそ正百千るちとかいれと君きまゝ
未　川そ氏岸のその木入法と志けこゝ入の今ゝ如

一棄　朝京　賀茂　扇　萩　神垣　吾蟲　立蛙　世　芳氏
俳の戸　燈　雫色　山路　菓　思書　急雨　家下者
有る　山井　呉竹　松花村　七夕　牽牛　花ト云
朝典ハそうの君ハ花ハ村　浦風よ涼やれゝん　受人入をのよ広きうん
俳ふの咲し色八出ゝこれ久ふなりぬ日き明
心ゐく後ゝ志ハさしそんぬ風幕家未のそてうれ
卯のほ深ーえをぬきよとあなに世とハ却ハ志き

〃　行器八久の志ぶ　朝ふの八華
〃　春日神社のおさうま　侍るそうしぬを

一蘭　依保　春日　京立山　高砂　武蔵野　大江山　高姫　時雨　鹿　菓　笹の雪　色雨
玉吟　未来　三鞆　蘭　裏花　始　白　荷破　葉　猶青

一刈萱　七座　表章　小弁　春日　時雨　秣　高室　疾　秋　色　歩人

裏枯る浦たちそうぶ刈萱も　物を思ふ人の秋ぞ来にける
〃　歩人乃かきつ八風のおと　ふ秋乃ゆふへ乃刈萱の露
〃　社風よ興そうぶ刈萱乃　君よまつ八の里乃刈萱

一月草　花物語　蓑笠　草深野
　月草の花衣にうつる秋乃一雨
　月草乃花のうつろひやすく　つきそめぶ花田の草のまぶりて

一露草　狂吟　物ごとにそこせ秀吉　京方ハをん荻乃花

一蘿　宇治山　茶屋　留主　お蒼　こそ社　二王山
伯隣　嘉吉新　松戸出　古屋　庵　岩や　栗を刻む
栗の戸　こそ酒　落
山路
契ありてこそ
山家　おもふよりあるは綾の梢かな　秋の夜
未来　三物の山井垣の雪ともに　秋の中より秋をこめ
門　てまつ皆伝吉井松の中より秋をこめ　原雪のふ

一忍者　古屋　宗祈雨　橋　古屋　東や　蒸行灯　蛍　綾の新
納　松屋　素雨　お蒼　おやめ　古文　梅香　五月雨　仕隊也

文　住江
軒をとまりの年の内よりこの春
未来　人もとめぬ山の里の関板は新の雨よりも先けり　舞
俳機　むすびおきし一形のすがたをつまじ

一思者　武義也　信吏　素日　尾花　ろの辺　五文屋　欲多人
神の宮　私よる寸中
愚者　素月　下ろ前　俗家思ふ君のめぐみをそままの川水
釈勅　下よりこそ
未来　ひとまのもてかへる也　尾花　ろ　不思議
こそまのろうとうるおりいくさ又二心ありとも　素

一芭蕉　塀根　山風　秋風　古寺　笹庵　源　宮綾　雪中

老て世よるくひもちたる根田のあをくくく

漢
紀勘

ほと出め物思ふ〻一志の芋まねく枝の雲ゐけ〻〻〻
なき月代文神の小卅の志乃芋かよ出ぬ志い苦〻かと仕

一花筏　小倉　清足の関　牛卅　青川　梓の神　書社　忍玉
さ去　ほうろくちかけよ秋乃名をちき心をよすら風なくて
東　秋乃卅の家れ枝乃もと落〻よ出〻まねく神とえ神〻
漢撰　花芋てよと毛志れて秋風の吹〻とを仕ないとめる志
夫木　女子乃神ふる山乃花すて志雪打払心ちを学ん

一なにわ萩
東　文ふ手のりとあ〻代小とく家を志ら風とふる〻君を大ま
名古　古里のな芸の小萩咲〻よ〻秋の〻夜よ月そ稀

一教童　秋の宮中　神垣　月あら川辺　文人
年中　世よかくて〻ふるも〻もをくハちへ〻ふを放神乃恵と
行大　男山秋の雪ふとかたらふ人川流ふ志川四方志難

一司召　大井川。梅花　君を折　盃ん乃ハ寸　九を行来
従秋　川舟よ染てふの行時ハ志つめる羽と毛おも従へぬ風
司召よりしふる比人の手紙かせまるに
秋を　従ふ年ふる物と志ふる乃わもと羽を友とそふん
大江挙周司召より梅の花をえてよめる
風雅　周ふる春ともふ羽ふ年ハおもはよ時もよらぬ毛ふ
秋よ志ふ志ふと云ハつ〻さめて年〻

一秋月
万　みやこ行月よき男々さそ守国ふてもゝ
　　ふるさとをこゝろにかゝんむすめの人も
　　無家よ只もゝ〳〵をこそ八秋乃夜月

一三日月　さる家山　秋心
　下葉　木染　山陰　時雨　松　雫　玉落　秋風　瓜未　ころもう
　青雨　松　雫　雲間　音神　一味
万
山家
愚案　木のかりる垣ほまうす事ふかけ
　　ふるさとにくまおほる牙と八なとせうん
　　ふるさとにくまおほる牙と八なとせうん
　　ふるさとにくまおほる牙と八なとせうん

一名月　つくづくと名月の雨もやみくもりはやくふりこいしと
六義　山ちさに行雁月乃初ふるる風いろをかすめるそらん

一名月　つくづくと名月の雨もやみくもりはやくふりこいしと
玉くれ　独ゐ　麻　芦　持衣　蓑　納　楠　女帝也
外面　独戸　雅也　後　旅宿　尾花　稲妻

金栄
風雅
於玉
愚案
新六
川森

一名月　つくづくと名月の雨もやみくもりはやくふりこいしと
玉くれ　独ゐ　麻　芦　持衣　蓑　納　楠　女帝也
外面　独戸　雅也　後　旅宿　尾花　稲妻
書つれなき人の名月の夜おほつかなくも花ぢ雨ぞふる
久つくようけるよ宵くらき空に風ふきしきて
永岩の外荒垣のまばらなるよりもりくる月夜か雨
風ふるやどのまばらなるよりもりくる月夜か雨
白妙の垣ほのまばらなるよりもりくる月夜か雨
ふりをきてまつ人もなき名月の夜を雨ぞ
ふりをきてまつ人もなき名月の夜を雨ぞ
ふりをきてまつ人もなき名月の夜を雨ぞ

一居待月　秋の月はいつの月にも十八日
万　みまち月おそくの門よりも　上下略　あり明祝し
新六　家のこそ待つれかるもかくみ待の月も待ぬれと

一寝待月　伏待　小遣　下萩　いさ村雨
鎌倉於　文乃夜のふかやまくもの雨そ一寝待の月乃待ころ
於玉　いまつまん秋のあるぬる文乃夜の秋待の月ぞ待るるものを
愚案　山陰やあらしの声も笹枕伏まろびつつ月もとひ来ず
未来　更ふけ独寝待の月出てむ待つき山乃峯の松風

一十六夜　玉山　入内山　山端　松　立秋　女花　鼠雪

一有明　去年　三ほ漢　去賀　次ア　略立沢　二兄浦　奥東　鹿
花雪　雪　露　次ア　稲妻　梶　雲　旅　孫　れ　人
浅ち　衣ノ　雑面　杜宇　北ち　焼　左　立　ささの中山
世残　青きるん〳〵思　立　ろ　ろ　月　と　ん　く
有明の月ちんまよ　ろ　れ　ち　ハ　山ち　の　な　ど　ち　き　ん　を　く　へ　よ
去ろん　伏　梅　の　羊　表　さ　て　月　新　て　ほ　ろ　る　明　の　ま　道

一九月十三夜

一十日月　絢　時雨　亥　秋　妹
後ほ撰　さ　ろ　れ　と　ん　め　人　い　ま
物六　か　面　る　る　ろ　ん　の　村　ま　と
名家　去　る　川　ち　や　く　小　夜　ち　ま
老葉　あ　ま　小　舟　さ　ん　月　の　山　乃　猪　ま　ん　ー　の　ほ　る　と　ろ　て　ぬ　若　悲

一有明の月　去年　三ほ漢　去賀　次ア　略立沢　二兄浦　奥東　鹿
花雪　雪　露　次ア　稲妻　梶　雲　旅　孫　れ　人
浅ち　衣ノ　雑面　杜宇　北ち　焼　左　立　ささの中山
世残　青きるん〳〵思　立　ろ　ろ　月　と　ん　く
有明の月ちんまよ　ろ　れ　ち　ハ　山ち　の　な　ど　ち　き　ん　を　く　へ　よ
去ろん　伏　梅　の　羊　表　さ　て　月　新　て　ほ　ろ　る　明　の　ま　道

一十日月　絢　時雨　亥　秋　妹
後ほ撰　さ　ろ　れ　と　ん　め　人　い　ま
物六　か　面　る　る　ろ　ん　の　村　ま　と
名家　去　る　川　ち　や　く　小　夜　ち　ま
老葉　あ　ま　小　舟　さ　ん　月　の　山　乃　猪　ま　ん　ー　の　ほ　る　と　ろ　て　ぬ　若　悲

千載誹諧
風雅 なの秋てにをはかけまくもかしこき
山家 菅丞相秋月乃ふりさけみれは
愚手 山の端ハ月入さ云ぬ雪ハ未ほそめれ

一野分 篠原 見陽 小男鹿 千種 玉ノ戸 東雲 山里
後撰 篠原 古屋 雲 山里
風雅 よりくる吹世を苦くるめ
新続 かちくの野分よおへ(ふ)古屋やく雲ま似くる秋の山ーくめ
松尾 野分のまて荒ぬ(ふ)ーしまの方もみくるまくる岡の茂里
きのふまて荒ぬ(ふ)ーしまの方もみくるまくる岡の茂里
思へハ(ふ)ー化ある物を(ふ)ーへの今ハ分乃風ハ萩の上葉

一松虫 音羽 嵐山 小男鹿 篠原 代々木 鳥羽 吉里小野
尾上宮 古屋 有栖川 男山 め布乞 帰雁 高萩 音
篠原 小笹 尾花 神風 雲邑 夜辺 夜ふ 竹
なしの花の紐とくしよ千代松虫の声ききてゆく
松虫の鳴と共に行きてのまみ残
山里にこや松虫の声ききてゆく
ゆきゝぬ人のそ庵主の声
琴乃音にかよふや峰の松風残松虫の声

一鈴虫 交野 不破関 名取山 沖手島 桑良 鳴海 古里

一蕃

万

め寒も　秋元　雲　七夕　悉皆に風雷　隈吉月
かりよとて　まつ　鈴虫の声々　ゆく秋　風こそ
門　萩　萩乃枝の下葉を　宿りとも　鈴虫のうら枯
葉を　とやうらまん　ちる　秋を　悲しき心
かな　栗ほ　栗の　栗ほ　まそで　かくて　雑　物思ふ　虫の声

水蓼　虫　雑　飛名文　雑　蔦　松子　屋
切　萩　南　秋　名月　萩　汁山　雑　蘭　雑　蛸
玉　高　萩　南　萩　菓　雑　蘭　汁　蓼　雑　月　鈴
雲　萩　松月　寒　雑　蓼　心　遠　草　虫　雑　月　鈴
夜　栗　心

はぎ　秋　ちはやなけ　草の　松乃　蟬　虫行　秋を　なくて
玉　栗　風の　まつ　これ　うこと　り　吹　虫　秋
風　雁　きり　す　雨　雨　ふき　虫　なく
門　玉　別て　ぬ　秋の　松乃　きり　白　雲　夜乃　秋　雨
門　玉　吟　時　雨　ふる　ぬ　寸　なく　夜　虫　ともと
門　栗　雨　ぬや　宮　に　栗　雨　ま　く　垣　松　よ　虫　の　い　音　よ　降　蓼　ふ
栗　朝　旅　きり　す　中　おの　尸　に　行　く　い　こ　て　か　の　笛　よ　ふ　き　虫
朝　旅　蛸　短　脚　蟲　声　雨　壁　厭　空　心　嵐　孔　穿
三　雁　人　在　定　中　聞　蟀　鳴　蟋　鶴　曽　捿　処　掛　猴　猴
秋　雑　虫　櫃　桝　松　木　栗　秋　雑　柳　萩　高　星　板　月　時　雨
鳴音好ク秋シ　蛍　鬼

愚李　雲雨の降みーぬ里を　きて　ふれて　梅の塵に　まぎれ虫
未木　夏かれた梅乃花笠あるものと　柳よりくる芸虫や　まぶ
〃　　あせてうすみどり　風ぶ音に　ほこそ　なみ秋の　虫

一蛸　石山　友芸川　神南侯社　羅山　洛陽　松宝　雲雨
冬　木戸　山堂　木拓　久安　舟中松　岩辺　桜子　作泉
含梁　山の表　名月　山桜軒外山　人待心　一柴
千枝　月清　未木

一蛸　二村山　女郎花　蘭庵　帽子　一ノ草庵　七夕
松尾　糸竹吹なそらそれそ　冰人乃風もる織虫よみ白てそろん
未木　秀吉ぶれ　ぬきのまや　をいうくよ　梢織虫の　声くも鳴
〃　　新田原　秋の門とふれ　契てよきかの　ねと　そくて虫のよるもふとる
ゟ　　秋の門とふれ　契てよきかの　ねと　そくて虫のよるもふとる

一蟲　晴ノ山
松尾　鳴ふる　ふ　逢坂山の　ふ川　浅　豹　もろ人　やきくらん
〃　　豹なへて　鳴りよ　の　秋へとる　ふれ　小者よ　寸ふく　蟲虫　永
未木　住豹山　柿下の　秋辺も　ふ　ふ　梅も　ふそ　ぬそうそ　虫ふ

一玉屯
お泉　もろもろの人のけるを玉屯のかくをそめて記えとやは

一山陵名
玉柴　鏡の門も松うゑやまの
約六　山かつの人ま守るころにくよりおりふしてみこゝ
ま未

一小陵名　椎下校
於玉　玉きても見よ一人の山里にかくむまきる梅の立枝を
約六　みそもよいこゝろ山かつの草の門もそうろう
ま未　も山辺の嵐よ川家小うゝめ時雨まちいくらのとゝ

一増子　一説うその実名
ま未　トリアキし
門　おくれ一梢の冬を思へて校ふもきみ忘まて
そうれの思へてきみあらてとまりて梅よか一房こゝ

一鵺
山家　桃その、花よはの人家てとうそれむをこえ校春愁

一伯労名　朝屋　玉飛　こ鴻
校折　萩　一村薄　尾花　君を来　雪　枯野　松虫
秋飛　秋萩　玉川末　立川雨　垣根　賤の庵　桃　四手田長
こへの門玉くにみうられて鵺のまくに風ちうれとを

風雅
約六
家持
田植

鶯の若匹本乃未栄秋くけてるや烈き海の松々也
植らる植のうまきの秋風よおおあれてりまえ名字
営氏梅乃花笠ぬひあ
反古無色論人在側

一晴

詠藻
城川
ゥ
主

稿名所
沢水寺
おいての伏見氏望に立晴のそうたよ成るるうちろ
いあまま分更の尚よ伏き氏かくれぬ手ひつ生分
小夜実て物乃かまきはの羽ききすき晴氏も風は
杜宇伝とつまをかくくうくく晴小友ちくくに

一冬月

冬之部
橋焼庵
玉梁
於也

雪を生てるれよ伸一冬の月風七才と入ぬ六たをめたき。
いかくてをりおりてん中氏月まの花よもおとくくかん

一風

生田高矣立田大原 柞原山 老曽杜 菖城
深草 白川関 竜田 有乳山 月桂 松垣 萩寝 雲
都槻 花月 栄戸 鐘 萩寝 寝覚 雲ま
高的 屏枕 滝栄 や 多

笛 杜人

新對　古寺の出垣ろ庭のもち～梅乃ふとち～也秋入こう～
千我　山ゝとゐ家ゝ～ゝ～ゝ～

雪のこゝろは花も梅よりは一きわ清うおの
〃　ふりつむ雪のまうくしてつるを清行方も年にまさりけり
新千　白雲とやうまれ不尽の山の如
松　松竹とをしまくつゝ氷れる雪共消てぬ水
山家　打あつぬめくりの垣の卯花をうれしく雪に下つゝ袖も
未　越の山立垂梅のうつろひなきの色よなをむく落ぬを雪けの雫とたれりつゝさゝん
〃　〃　雪白く山辺をけさ見れば春の三吉野秋乃夕斜

一浴雪　矢田部　有乳山　春日　布留　八槻　奈良　巻向檜原　花
　　　　吉沢　筑山　小松　営　萩焼茶　ろう　沖津塩谷　竹屋
　　　　松原　物見人心

仰もよし泡雪降と志ら梅の花咲つゞめりてく
ふりつゝ雪ふれ〳〵と志ら雪をまもるよ
笠雨の夜雪まろ〳〵と降積りぬ純にお雪うぬ
いつとう清き雪共明そみ一の山とんやとを

一霰　天河　二村山　文屋　春日　藤浪　秋根薮　芦辺　末
柏木　家戸　笹枕　枕　雪末
菅蒸　庭門　つゝめる花　時雨　棚云小舟
末あらし　生　猪　萩　雪降　浅し　苔　檜笠
小笹原まり〳〵尾花の外そうれは音もかりてなあうれは
風ふき乱ふり家根いまれと妹と今衣河出そみる

嵩　山川の岩よりおちる滝をあふぐとそこは夏の月
未　音ふかく出ぬ
詞花　泳やのうえにおちる滝いかに拙きこころぞ乃上まで見たくばかりの松の
去雨　武士の矢おそたむめるこころぞ乃上まで見たくばかりの松の

一霙　小雪　春雪　冬雪　有乳山　三勝　佳吉　琴花　味唐
嶺　作出ル　霙　竹ヲ
未　みそれは六月の祓か一ふしとをりの雪を書そへて社ゆふ
霙ふる雪の山川遥りみしむもそ山ふところそれ後千ひおれこの文
字は山々そくもれそそ
ふもみかくやのゆふみそれーつかくもも立物ふれ

一炭竈　大原　志賀山　小塩　統法　尾上　松　妙き
海中　麻衣　厳　蚊　炭　雪　山里
紗牛　かくて打世ますそうの浦のあの煙ふそ立ぬ思の煙ふそ
嶺川　風とめる民の煙のあの煙ふそ立ぬ思の煙ふそ
愚美　炭竈も氷室もしらぬ小塩山ふ火と水と社海之
未　雪をおつとおまもつれ市の南門のかち海ふそれ車ふ
ハ　ハ　ハ　

炉塵　埋火のあるさまなどをいふ　季　冬
〃　灯の影よりの埋火の蛛の巣などをいふ　季　冬
〃　初句より埋火を繁の下の埋火などもいふ　季　冬
〃　山里にもとめぬる夜のうつり火も板屋風吹たえ

一　寒　季　冬
　　ひとり秋のゆふべを寒しむ山人の今も恋しき

一　冬の月　朝日の里　鏡山　文也　白桂　若尉　七女　柳
　　夜の山　雨桂　清士　白桂
季　冬
　　七月の冬の月いでゝ今ぞいとゞまきくの花

〃　未
〃　年中
　　新年のきこえものそしづかなるの上人

一　仏名　歳暮　屏風　梅　雪
　　冬籠　閑加　樒　東琴　桐梨　菓
　　年ぬれもあくる日の繁も白糸の雪を仏の名を唱へて
　　愚案　季　冬
　　あまた度の仏の名をとなふるより
　　一と筋のこゝろ託ぶかき　三世の仏乃徳のひくきに

一劉　鳴海　志賀庵時　玉井池　玉井海　難波　尾上　花
芦　月氷　ひくのま　玉さゝ入江
峠　おち山の尾乃上をこゆる久美八松吹風も加里恵ゆく
名寄　朝汐よ水鳴る時を漕行と竿よ引る原列寄封書

一秋沖　弁田入江　山端
末　浜鳴る杜吹風のおろ司うて守え波辺よ秋さらん
門　鳴海ゝ秋さる原とうて祖る夜のまもいつくみな

一鵬　改良時　蒸破　李のそ　入江　松　蜑　白渕
月浦　みさごある汁の風よりれき子鳴よ注玉八旅行ーて久
末　鵬居破名よ立るむろのまも松もまそよ雪そ積家

一氷魚　多分鮎の代を谷上　を以海　枯時　宝永　貢物　大文人
古六　京うち原祝の公乃赤ち　鮎の代の氷奥の和もろれ
年　陽　策もこも杉女ひをく九保つくみ鮎の氷奥の和もろれ
薬垣　神宮月宇治の鮎代乃ひを　八保つくみ鮎の氷奥の和もろれ
大和　ハ年祝あ乃ひをにるを　ろんかよりて永をとぬと
宇治川のゆ乃氷奥のは比おくゝ仏よ宮と祈け

一味漬　ま玉ぶかひや氷　浮草　柳陰　名川
末　名保と六面のよ玉ぬーつけーて味玉氷よ玉ぬ吸る
隅川　泉川乃ものそ玉の代味つ者乃氷る名ゝ来よゝ

一神楽　葛城　八幡　住吉　九重　羽衣　白妙　砧　月
拍子　未
月清　神垣のしるしの風も吹き折てよも更かしぬ

一爆　正尊　玉垣　宮居　池水　垣ねの桜　木綿付
拍子　未
門　かく神の神ある物とは知ながらかつきたえゆくとかくや火葬ともみゆ
仏ともなれば五更の空

一謡物　屯上人　河竹　学　大門　男山　木九段　琴　玉笹
拍子　未
門　十寸境にわたにかよふ赤星氏春もこれなる冬のほの
君をも求る乃かさしよりおりて夜の吹作
ゆふげて榊をいるみ川社れめつゝきたり波乃聲
ぬる神みくら川なれそてよそ正めるうとそ風の声

一綿　紙衣　正尊
拍子　未
門　秋のくる夜乃夜の一ふしまでも忘ぬ虎人のこゝろ

一歳寄　鏡山　飛名川　仏唱　老の牙　絹配　歌　急く仕来

未
新古
悠川
風雅
朗詠

玉祭
玉敷の松山川乃代々、てく幸末をたゝえんと
石そゝ浮神せの川の浪おだやくもそれくれなゐ染ぬ
今ゝわたの原川よ的ゝかゝらの雪共新緑あり
おゝこゝ一花千枝の余波ゝた実よ受ろ幸のそれる
寒流 帯月澄如 鏡 久吹 和 霜利似カ

一祇園 神祇部
は於モ 千本桜 池 ゝ水流 松
未木 ゝの振神入ゝのあろ姫小松万代姫をたゝめ之ゝ
於玉 笠まさゝ山ゝ氏尾乃永日よ神の宝をとれくよあろ
水ゝ月の絶ぬゝふ入るもにゝくゝやふ神の宝をハ

一宮
春日 三公立 和ゝ浦 玉よ敷 堂渡川 五十鈴川
住吉 常陸帯 妻恋 をより皇居ノ喜ナリ 吉水 大原 小塩
山科 宇治 ゝ羽 花 逢生宿 ひゝらの えにめ
文杜ぬゝき ゝ一万代ゝ今ろゝさうゝんかねくゝ望
和国のくゝ治ゝ万代ゝの文ゝよ哲ゝ世ゝもかゝ
守代の文ゝ赤立社のいゝをゝもくゝ社神の未ゝ久ゝゝ

後古
未イ名
於玉

祝詞　白川乃関のあるじ　よきおり
勅撰　くわうじ　天照神の宮柱ふとしきたゝせよ三ー七ひさしめ

一社　春日　賀茂　布留　比良　日吉　三輪　石清水　貴
船　武庫山　稲荷　歌杜　神木　榊垣　鵜　桜
清社　杉村　祝子　槻　首　葛　八七女
仏教を　今よりのちはあくまでもまことなる花の教えを社壇川
初六　石辻のもとおこしたまふ　杉むらくれし山中に社をそ
未　筆作　なお中乃杜の妻社乃や花芳かよ生めぬ

一瑞籬　井垣　賀茂　住吉　石清水　稲荷　山田原　貴船　春日
三輪　歌杜　祝子　呉竹　菊　葛　おもめ　葛　花

一朱玉垣　住吉　乳杜　賀茂　松尾　三室山　稲荷　三津　卯花
石清水
槻　玉垣　朱の玉垣　秋の時雨　玉垣
初勅　玉垣　三室山　槻　杉　緑　玉垣
玉垣　石上　布留　朱乃玉垣　上久　秋風　吹
未

一鳥居　野々宮　稲荷　春明　杉　榊　宮　玉垣　朱垣　天降

風雅　霜宮に沖のみ雨も寒しみぞれ山な
郭千　立よそふ司もちふをよ嵐のそ雨のそ花乃
為家　名をみを仮山の仏ふ原の沖よふれないさめそ

一行連　山田原　三帰　常盤社　神政山　貴舟　賀茂　那智
永　三津淡　二条　大系　みく文　八幡　水谷祭　葵
納　杉　軒竹　萬代いのる　祭　社花　榊　神
郭右
郭なお　早苗と原山田の苅ふ秋風よふくれ山ため縄よふてころろ
神垣や一夜乃杉のみ一めを八千年をうけて世をわ心

一千木乃削　住吉　熊野　伊勢　天照神
後な撰　久堅の天乃かなやおいく世をぬきもをそ川の千木の行前

一腊　比良る嶺　沖風川
来　卯花も沖のこりふきふ山をとよの〻沖おふはふも千さけ乃白菓のた
年中　衆をし八月のそけをみ花川

一祝　巫　稲荷　三帰　春日　吉田　木乃伊様　神示　榊丸
来　燦　菱　山吹　鹿　清まく　舞　玉垣
集未考　永久うる我天津社よ赤祢けを守をしおれよ学の嗚
後な撰　神垣よ苔　像の衣きて幻をよ多る人やそふる

於至　　祢きか原いその社のひとつまたまさきをもてとやめてきけ

一川社　滝にて波の声　榊　白
彩杏　川社志のよおもへ二千衣いうほせとう七月むさゝ舞
生三　川やーわほやそろも分ー「波よ雲のまてまなよ
未　舟川、社とう竜よれる原
云朝　川社志のよぬわさへよきの神ふる妹も変かくまき

一佛　釈教部

彩勅　伯耆　法海水尾
後古　葵女帝元　岩橋楠
彩於　伴小奴　三尾杉木
ます　むつのうち成さられて三世の仏よハ以ハ杜よかくてて成
ハ　ふい公家ありのりそ仏のうよ夜乃岡
ハ　梅花三よれ仏乃ふあよ「おつる独了人なとうめて
行去ふふの沖ーよんいふむつとまつとも第
ハ　いつよれ沖も仏もやうふ日なの大やまをほ
縄の海中井よあつて度みよの空いをうふれ

一行む　玉名寺　椎なお言　求表　岩橋暁起　五人田

例もあ代を治位争　灯　おう　物性
幻六
未

一惜　警夜月照鏡　営　葉門　一枝花　琴　碑土向
千我　夏木深　花一盛　亀の甲　健男　庭奴
綾古　色あくまでもさくらの光あるべん
玉栄　心あるとそ云ふ一言とれてまつ見る花の枝ひくほどもはるをもたらしてん
於玉　花と月思ひ後にて行ちうも名も惜のくもと隠ん
山家　もの香をうつす窓ほそ風ふきこめて惜よしく風ふきこめ
未　ふれ行心のうちよ使月ふ出て入るな山の端もあり

一閼伽　稲荷　山寺　横川　花ある　秋庵　行暁　荒浪舟
於玉　やつれ一神
山家　もやさしき事の山ふ住心おうるまいのよくしの香
横川　掬ふ香の手ふれおもきを踏ちをくれ行のよ露もまるまし
苦を空と川せ水おつくれ人形までの水を汲そ炒よ

一其暁　江灯　行ハ　鐘　月　人よ別一夢心
千我　五更とうき夢の山よ待夜や苦のうちにもう卵も月
玉栄　君ら代ハ千年の山の岩の室ぬん朝のはよおふまで
未　夏ふ恋のうちのうちくみろくの世みもあれ夢

一寺　立雨を笑ふ花の山　雅好

小倉宇治山　志賀

名所歌枕　雲林亭

三井嵐山　亀山殿　臨海閣　晃陽湖

等屋　松子　白川　清之介　梅屋

抱山伏狐　説も　菅神　池蓮　柳花苑　呉竹

整　いく度降の寺ぬれ

玉吟　うつの声鳴乃羽音も長き秋の雨

未　萩と藤萱を吹せ心をよせ寺共雲入れる谷の

〃　入おのづから〇〇ありて山寺ハ文よし春もおそく

〃　おくる世界行同よ妹うつくしき小倉の秋の滝

一室　一夜ゆく小舟　花山入遍路う室の泊りとよめる序

続古　あらし吹ちるよりはやき橋花青乃後の春や老ぬ

続千　旅乃空よう待宵のふもとみよりてきよふもくつへ

一鹿野園　能る山　花　未栄　堅田

生和　康のうちよりそのまゝ

玉吟　ちりそめる山里の三秋を春より月てやとまる山

ます　康の園よりめ　秋の父春う春もかうぬ春のこ山

一念珠　桜琴　能　服良　楫子

愚等　西を思ひ入て光明遍照十方世界念仏衆生摂取不捨の月
影六
ほ撰　をくるしくとなへんよりは百とせよ八とせをそこそこ
なりめや

一拾采　雖浅深　宋唐　皆
影読右　ひとしく物主師友の恩をおもひて水原教ふみ
松主　ことに物主師友の恩をおもひて水原教ふみ
門　松風よはの月を松の方は心をよせて水原教ふみ
後右　化を蒙れる物を窓の梅四もをのれ

一英泉水　各生る生る千世のみどりの衣をえ染る原泉水の水や青き

一霧林　高処　巌井　いくえ生
影千　枯果し霧の林の形をとやはのこと氏文拾ひをうたん
雪玉　雪玉ふたの佛作りたまつよりくやすとく
影林を　いつへのつる氏林入と雪うくおりいとくまでおりれ
素　花咲しを家のそやよりそうこを吉野の山乃雪ふ

一六道　歌
影千　六乃ろこのさうにはゆきて脈のえぬかれを
門　六のろよつ乃里さにさすこひて始も果もをぬかさ
素　先よ行きをとゐる関寺八六のひをやゆるさて乃〜乗

一彼岸　足掛山　花掛
未
門
添削

一石床長床
愚考
ま
約六

一山伏　吉野　高野　熊野　羽黒　修行
愚考　岳　求衣
門清　山伏の出石屋の向ふ年ゆく
まま　おやぬまり　帰よりくだる
集未考　ゆきもかつて山のうち
法印寺めぐりしの
猿蓑　さん章子と物うへてもみえて
山伏時よあよへく

一偃武要塞　山幸　岩や　桜　椎の実
まま　川上や生きた出やせを
門　うえそくら明ちにきさむ

一尼　旭乃枝
約六　すゝ深の父かゝるぬさ行
門　一筋よ乃障いよいよ
公会　行衣氏おのとゝもろ
法撰　訪院尼よ友のよゝに
音よ子和乃浦路まよ
足るさゝう一ト一筋よ次よゝ
杉給杉乃浦路波ゝく

一楞嵩　愛宕山　雲深地　曉起　花楞　寺　斎　麻衣　苔社
玉栄　竹の苑こ　霧一支
参　仏のよゝ
ホーホケキョ楞もつまおう

一連上　世をいとふ人もこゝろのまゝにこそ
門　住なさゝ谷の水くゝ山乃小寺
一連上　あるまゝをすまこゝろよおくら
杉を　ゝよゝいろの今もおし
今焼　化ホーも消ゆる刃とゝ
芝　乃ゝてなく蓮の宮と
老葉　さ世よもの氏物ゝ

一翁　述懐之部

寺鏡　刈苗　細代　氷魚　枝　頬杖　松　茅巻　苗代
抱乳　かす　炭竈　釣　麥　栄人
市木子　宮守　水司　栄子　若狭　佐久　年石
海老

哀　おもき　川　なのまとや　今更よ　音羽山　寸尺　翁
玉吟　翁さび　人なとめて　詠の　月よ　むら　高尾
未　き更の水　の秋すゝき　行くゑ　おもかも　似る
〃　を山より　生て　や君　つゝま　四八翁　今もなく
〃　この月に　兵乃翁　成ぬ　人第　をく花の
〃　いく淀よ　釣玉簾　翁あいな　れ乃　車　君よ　これ乃

一隠家　吉野　仙り　奥山　松　桜　瓜木　山梨　芭蕉　翁
乱世　なま　物乃　伏見　月もとぬ
翁は於
乃れ　なくれ　水くるに　山里の　栄れ　あれ
城川

一道世　吉野　八原　宮神　西山　三室　恐山　雪林　布袋　横川
明石　浜辺　小舟　山奥　栄は　人　若乃　乱　別　中　康
ほゝ　おくれ　仏　を山辺　梅営　山堂　子を　田　鼓
栄庵

浮世よ　八門　さゝやと　を見て　古
乃古　乃ることとかふもいそ　梅花咲て　夜めるまりれ　世乃中

門　世我岸山の南の松風よ苔のこゝろもや　春を山もる辺
風波　いよ〳〵入山路の奥の至そうふもこゝろそうへ新なれ
松立　いき志めるあ〳〵いすると可まほろし此見宿に山風統
行路　着てとを伝のあもん世石をとく枝さわ〳〵るそ悔き
人私　ほてあ〳〵こゝろれ好よ御保物へ浮世我岸く彩之有

一雪後　荒花園　山堂月　二日月
六家　とめえぬいのこりあ〳〵なる安ぬの家より生〳〵雪後よき
金栄　日のこりとおまねきこ〳〵八生父よも春すいとへ雪後
新古　めくとあいてくやそれとそぬ百に雪とな〳〵脱かの
菱家　流り保神の小路のせらくし若よもれて行方も有

一若衣　山雪守男　倭人いりる　洞純
金保　若こゝもいとうまるこ七夕よかこぬまつけてぬる〳〵神乗
門　草木まてありの今年松さ之若の衣きて久
新六　いつとの法やくおまれ若宮あり〳〵ても妹よ逢こゝ心
保民　若こゝもきて〳〵ふ雪板のせにかる世我

一椎栄神　七夕よとて〳〵かこぬ椎栄の神〳〵もとに家々うれ
千秋

集古考　そうしてうきよめるたくさんおのゆくえきくうる形さまの社

一雲深社　ある社小祠にう青苔梅萩橋君の字統めぐみも恐有　九辻　霊元さま世ばなれ生ぶ　繁を判

ほおを　まこと深き朱の玄をかさねる八
杉右　すみをぬれたるもうれて雪深く
源氏　入日さし洛たるようすまい物思ふ神のなるほうる原

一塚　北の丸　名所図会　笹坂　今出川
小笹原　狐栢松　草深々

みうれーまの髪をおき添なおさへ　おくれ毛　未来
おくれなひひー髪をたくしあげ　八
うきふさをハつかねよ仕度のつゆ　玉吟
舟出乃裾みのつゆ数そえて　田楼
燕數　薗囀泥置塚上　百姓情之

一奥都　うなひし女のおきりし塚の名二津田川より分るけーせのす
万三　（かつーうたまくのてこるうおきりしをみとえきけや
（まきのこやおけくあるくん
（むりてう余河みもえ
八　（もーき仏係山ハミ柳ニホメ　おきりき木トモヨメリ
あのやうなひおとめうおきりきをこかえこれそ

門

（おきつ川なにをめりてとゝみ舟
たのつく人ぞ右梁慶恩寺物ニコノウタノヨキ神ノホコラヲ云ナルヘシ

一幸教寮　音乃波　鷲山　此ヘ宮ヲ
山家　ウツセルヲ名ヲ
柔　知ラヌ世ツキヌ事ヲ
門　後ノ人ニ古ヘヲ
ト云ヒ

一死生山渡川杜宇
詞苑　おなつかまくいとぬるを死ぬるの山雲ゆくすゑんとすん
玉吟　ゆくゑしらぬ旅ゆく人の死ぬるの山路ゆくゑしらぬ旅ゆく人の死ぬるの山路ゆくゑしらぬ旅ゆく人の死ぬるの山路

一妹妹詳 戀之部

雲松原 大津 三津 立石 水茎岡 神路原 衣川
作保 伊勢渡 長良 天の暗戸 鈴鹿八瀬
布留 滝の白糸 泉川 松浦 治承 十市 泉川
桂衣 梅 初春 一ノ枝 白桃 梅子 御前 萩
萱 連翹 深木 幸結 雪 花留帯
妹の門 山下略 妹の門 妹背山 妹の山 妹背
妹背 永遠 妹の山 妹背 妹の山 妹背
いもかよう 妹の門 妹背 妹の山 妹背
妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹
水無月 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹
妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹
妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹

万
門
門
ほ撰
松を
比松を

妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹
妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹
妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹
妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹
妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹
妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹
妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹
妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹
妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹
妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹 妹

名
手仏
志
門
門
松川
松
玉来
門

一宵子 岩根 橋 萩 梅 笹 扇 千鳥 笹の露
万 タやみ 蓑虫
二承セこの宿の山吹咲てあ(イ)橋

秋玉　いつ宵まつ初りの光　遠く隣りの砧寒き
古六　おきうら今よむつみ二あかせこをいかにせよとや旅よ行らん
彩六　あかせこら若狭の浜にやとれの松うはの空

一吾妹子　石田　志津　佐兵衛　猿沢　奈良　亀坂　鏡山　あやめ
萩　橘屋　雨　梅　檜　橋掘　南　柳　衣打　鏑　菓
百合　略　卯花　紅梅　鮒　め鯉　柚　籐笠
万
誉
綾於
彩千
鳴川

吾妹こゝを世の山ふところとやすきもろ人家のにをそ
あらしきと立てきもこゝ永家のにをそ
誉るやかくもむまいなる解へよ
綾於　たらよへき方をもこゝ松の檜乃も
彩千　つきもこの物依をる父母のうつりふこそ
鳴川

一婦人　三嶋　おもり　花畑　雲井階　八幡橋　柳　夏祭　横衣
　　桃　扇
彩六　たをやめのまよぬきうゆる衣をのいと心ふかき
ま木　婦人のかさ原乃日のかけてる玉くけば
川　寺をとゝめの神打ふ西乃橋もあるに

一人妻　東や
　　洋撰　他つまに心おやすくかけそれおやろに物ふ忘そ
　　於を　まくろくのいろこたゝ寺ふ原人妻のおゝ止ふん物ふやいね
　　古六　人つまい杜ら林りかくる玉の虎伏ふ夏てあらんこ年

未　衣ものいふらの神乃ちふ人乃妻も袴よこゝろ

一をま妻　神風梅　麻　七夕　霧　花田枝
万　をつまと鳥乃立ちゐる夜半乃雨乃音哀あけ方乃
〃　とを妻をまちあはきこゝろ月乃西にや柳ま
風雅　秋風乃ま入とりんかまきぬ妻八神乃神乃ま仮初乃袂乃中も
源川　白雲乃八重雲乃ま山かさぬとをこゝろ八をつま
〃　思つま乾てまうれ乃神坂ま西乃ま仮乃花
未　をつ鴛乃くる夜乃細乃まのさうに思てもー
〃　玉乃ま手乃三文字乃起よりー玉乃源つまくよまうもー

一教女　弛上里　焼山　まそら　苔　岩
小神篠原　三治　雁波　流妻　旅　沖
未　うつれめのうつれてあらく旅やて行ものら
後撰　なの契れ浦の浦の沖はま舟よりくる人乃定ぬまこれうれめ
百首　六百本　東路や行来乃人のおそ乃白乃竹柱うつれー
〃　大井川岸乃竹柱うつれー
六百本　東路や行来乃人のおそ乃竹柱うつれー
〃　これを云うく袂をとりて寝ようれめ契ちー
うれかともあまのまとよめり

一立君　行路　一村芋　名別路
月をえて田舎ら男と思公者て芋ー公ま
松を　今宵君いる深里八月をえてこやらよあと思うん

八
古六
まま　君よりうとく成ぬる

一嫡　形見の子　同　青墓　塚の四　ほちよ　雖面令下　かす
　　子仁
　　門
　　仲裕やもめてゐ
つとめ　衣手俺
ほろゝと年寄宿をでゝ
八まんむらくもとけくのこゝ社成まさん人めうら宿の夢まちまち
おうくゝぬ令の沼まれをゝ心のたゝうゝ心ちゝ

一化人　葵生　篠宮　たゝめ　れ給　一夜斗　立名　家移
忘草　鳴神

詞花　化人ハ去ふうその月あわやれ
後十　あく人のつゝ人契よあゝらんまさんとそぬほゝくきてつれ
　　ゐたかる太刀の緒ふすへきほをまつ久くくさはりくれなゐ
末　　化人ハたのめてゝ染川のよの浪成てや至ゝあん

一一和契　七夕　松め　物仗　秋立
　　旅の心　萱　若
俤氏　ほのめうへ風ふつけても下萩の半ふまをほまちうら
後十　並れいくゝのおもむきぬ一夜斗ハ秋のちきりと

一待　有馬　更行逢　雁　まま本戸　松虫　心の花　松風　暁逢

おれ さびし蝸 花芋 虫 螢 砧 囲灯 薫 たくみ
久保 月 床塵払 雉子 鳴る音 旅寝さ 七日月
星うの山より出る月まちし人こいて妹まつらむ
君ゆくと座ふしてをおもひきふるも袂を露ぞ玉ゆる
ほとゝぎす心もなくて待つる夜のふきもてくるうき
ちきりかな待宵よやまくまつるくさのうき
つきもまつ行末頼む秋風の上をよろこんで吹ちん

一別 東雲 横雲 時鳥 行舟 船出 旅立 神
扇 滝 松蚊 傘 水の月 陌
もゝよもとなれと惜き人ゆゑ
たゞ恋のみ雨をつゝさにちりて降る厂の

物六集未考
別辺 別よりこゝに雨こゝにふるとも袂の露
いつの月に宿しるらん白菊のと云て降ぶい立更乃雪

一逢 多花の守 沖る 丹 悲人名 占 七夕 友 糸竹 下級解
明る夜 帰旅
恋ゝ
ふかくともおりいる
逢ふ夜の後ぞ恨ん
風雅 つゐに中ゝまれなをも文果ぬ人の志ゝまの原なを待ま
一不逢 数物思恨 ひとりね 占 時世よ肖 待佗
行衆 糸竹おろ

万
新古
続川
未来

かきくらす人の心の横ぶきもおいぬる日おまさる何のなぬ
雪神な降つゝをつけよ須千鳥恋するてふ雪ん
うらふれをよおいぬるかをしてくにちる姿
るゝぬ夢の心ゆゝしのま習い恋ゝとのこそ学ばかるいと

一恨

境 恋一部文心かゝる 雪ゝ雪ゝ 降き位
代人 物恨 恵き比若
新古
愚案
続撰

恨つゝぬ京夢の神の心かゝぬ花のつゝに汝やこゝゝ
今宵は涼へき秋の日暮のへゝもゝて物うゝみ
玉章のあゝ代大神のゝ尊京うゝみ立る松虫の音

一物恨 菱 伊 玉ゝお恨 祈 行心

優

新古
愚案

山桜分るへ山里不乃車あそひあわ 灯かすうと分るへ
久良の心 けゝの香ほきとつくるへ蓼の上乃心と
しるへ 菱の上 夕負へ三人共よゝ息不乃物の恨と
枯枝分るへけくろの大ね 小舟へ浮舟 童へ物恨云
京男子をあゝぬる雨ちれそれおうゝそおほれなる君へ
きゝ

一歎

琴
新古
川
未来
菱京

俗人乃行へき宿とろゝよ歎くゝ京琵琶音そ京
けさよりへゝゝ思ゝもをたきまゝてなる紅葉の山
つくゝと思へて安き世間を心とおけくまゝ京ちかくわ
人まれす君ゝ心をほくゝそ山陳なれものゝ歎ちの名
歎きよへゝるそれの夜やゝ京子成て社思へ勧ゝ免

一偽　来ぬ人　寝世　玉枝　教女　舎をけ世
於を　告やらん乃ふも教をす　枝ぬつくり人とふかや成をし
約勅　ねの云乃ををくいかをすふ　ふの形ふと衣をん
綾於を　今ふんとたのめし人のつくりを待をねの月にまんし
約於　寝しくて人くとをを山里につくわし侯営れ声
寄ふ云　一よわと、いて生つる寄人乃仮をを原話うつふ
綾綜　はのをへをよふのふも、つくわハ後へ世ふけておと社きけ
花及紙　いたしてふに志ふ侯ふに紀の非ふわとは

一物思　雪のふふ屯　萩　笑菱　砧夕鹿　鐘蛸
友迂　独寝　ゆるさぬ中　うた契　はふ枝

侯於を　絡衣ありふ声をはめふて物思つめ人乃れっころう寄
綾十　衣の月ハ花よふころのおくられてその思人とふふぬへき代
愚等　しりもへりもちるのに名のふ一声も物思祉のおて衣と原

一見初思初車下　侍恋ぬ　愛　翹産　及恋　賀義秋院
見公ふ云大おか義秋院　おりト秋院を見合たまふ
おりト秋院を見合たまふ

春　おをう川関ハ漱よを原世ありと衣思初てん人公をまれて
ロ　始也ふの心恋をまふこれ水云風ハ仮よありめて思そめんん
初古　染れ紙よふころハあふの心をほくふ人をおりへてめつ原
物勅撰　人志れを思そめつとも　おつけよありハ勅つるこふられやふて千人の祉乃なふ八
約於

深民　柏木清の女三の文をとりて
　　くちなしてあるぬ歎いを
　　中立の侍従
〃　今更よ何よ生て山ぢ及ぬ枝よりみかきや

一　浴衣　紙を折　髪洗　おり波　雨　三立山
　　名ばかりおく代よそへきたれ路波のぬを衣きるとも
　　天下のうるし人乃名をやきてし浴衣になるよりも
　　め布も秋を京名をや立ぬらん白雲を浴衣ぬ
　　未来　雪ぢ路波のぬきぬきうる人の思をつくる滝りれ
　　おとう井の服乃れむすめそ
　　桜衣　思やおこおこしぬやかうらん引ろくをりきうるぬれ衣

一　立名　思川　思川　め布也　塵　いそ門音　化仁　似　落葉
　　文暮人　名月　名木十ト
　　立今　名ばかりの三八吉野の川乃滝つせとも
　　撰門　立てもなれ人よまけーとをも化名氏立をしは久る
　　未来　ちんな立てる名きはめん百安の人乃心浅花とも承
　　雪ぢれを里そ外の梅乃後香に昨せの出や理名立つ舞

一　記念　梅　大立　布留橋　扇　水葉波　萩　落雪　紅葉
　　立今　絵衣文
　　古六　糸ぢ衣八布ろく深ぢんぢ衣の袂ちん浪の形見り
　　別ても言まよの上浪八里ーけるれ見へ紅かくをこそ

名木百詩立一首今も老人ことに形見久しく記こつ人淡本云

一忘形見　海辺に蛸門別又字綿　意傷心
源川　立ながらみやらまし　おもひけを
古今　おくてこそおもひ中ぬれ　ながめをそへし
新古　思ふ形見ぞいく束の夕烟　むせもやられつみに

一石　街　大路　並ぶに　けたの桜　宝文　教夕　まり　旅人
万　そ連　佳賀宿
門　玉津の名行合よりうへ妹よおんとも妹よおんとひつ
新　月清き門よ出立見合しく　ながめ
　暗ぬへきそらの古も春雨よたらし雪き郭公

陽川　叶しやく乗入ますらに見しき人を愛にこるを
未来　思ふ合よ楊よ立しく合よ立て古と云ことかなりと
集古考　おもひきなくは古よ立て古と云ことかなりと

一若云　玉吟　さ海つよ行ま久しくも只時の名代情こそより
続千　よことそもやこそ若云よまし　海ん仏そうれる亜なくそ
新六　待えてもたらひは契久に　ながめ
新古　思出よたら若云乃未あるくんきの中代波乃山ら多

一菅　賢　思産　主人旅　待よる夜　蛍　悲青　告来産
草枕

方
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一新枕　伏見里　閨妓　名まへ
[illegible]

千五百
綾古
綾千
約六

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一情　仏の言ぬ中　旅宿を　夕の一

後ろ撫　今こそとしごろ
玉梁　心ゆく事いつれとも
於玉　をの一くさそつる君のなさけ社

一稚者　吾妹子　小袖衣　又袖床　扇の風　枕　梅菓　花橘　神
玉梁　心よも神ふそとゆるうつゝを枕よみこやもきん玉へま
歌枕　手枕の稚り於原別度繋こゝろ〳〵形見こゝ
俤氏　又人よ別る神のうつゝの我こゝろ
亭主　セきそその夜入云ふ可れとうつゝこゝも白ぬる

一久玉礼　梅　常夜　浮橋　形見　七夕　梶　物思　商人　市　機
中将垣　橘　綿木　柿紫　榊　竹枝　旅ちる人　人を恋
布留の橋

ぬゝ　なこそ君の絶ゆ一白糸をよよ守こ紅物ふそ
玉章よ間のか京心ヒーつをくふくそよ广の吟まれ
百も越えてーくハ多坂ハ姉をたゝふ広中のひゝも

浮橋　こよひそくまの〳〵
千我　いつ〳〵
門　玉梁　年と名ニ隣のかへ
未　玉つゝ君のつゝのゝ
門　さもれてはなをきてふ
千仙　秋風よなひく尾花ハむーゝ枝よ似てを恋ーかよ原
未仏

一瞼云　七夕　秋夜　鴨羽うに　東雲
新後古　むつまじ八月熟の
拾川　瞼ことを、てもて
未来　玉ぢいを紅中のむつ
門　流ちまでおくハ行ふ原人つてゐぬむつ

一古今、化人　独寝　四統　うき身　引琴　河
古今　人やる可つまを、よ
新後古　原の名をも金ふよ
古今　営ふてこうの舎の古レとやふハ人のきれるかるゝ心

一身を知而　まき来　仲約　淳宇　苔衣　私蓮　徳恋　大空
新勅撰　ルーそるいこゝ之山を生ーよ
古六　天原鳴神いこゝ思ゆんゝふ
愚草　ふるぬまゝよ年のうき姉よ身ゆ

一通路　未来　忠山　業祇　敦家　柳下　山真　堂庭　宮守
玉葛　芦垣　忍人間　山寺　名前　筆　笛　茶湊　宇治
清え　芦屋沖
煙ふと　ふかよゝ
方
新千
月清

一下級下帯　紅茸　庵中有句　冬松　冬夜　衣衣　井ま　みま
山吹　七夕　恋草　冬松　雲厂　ぬて屋　落衣　まくせ
古六
古今　めつらしき人をそんとぶらひもをねこめ下紐のとけ渕もん
新六　むとまでもをもふ下紐の解けしおやしや若くしき青も
後拾遺　色もかたむとまでもをもふ下紐の解けしおやしや若くしき青も
未　下の帯むとまでも氷よまでもうけてうとふそうそう竹

一おけを　久　玉章　舞　添悉　添民ト　若つか　久雪ト　筆上
梅木ト女三　葉平ト二条后　志賀寺上人

千載　わすれなく注世界民まおりの所立松よ墨染の袖

一乃まこトヤラハ　かけもの花　心隔のも
秘衣　柳をたかふふふをいたもれや
源氏　皇のかさまわとと着乃花なをぬ枝よ袖うけをりと

一親さ原中　恨を押こひる　桐画　心のまくあるぬ　絶入画
万　素跡の仇やれ舟ら　乱をかし　艶　さこれを妹まおいぬの
仲努　出てゆまを飛りれのかくうんをしまうるくふくるも
とよそてそく入よりと
俱玉集　賀川のやうまれ松やうにぬる我いまくてあやさく原書

一中立　恨心　孤心　舟の字つくり
孤心ともあるぬ中立ト云ニ枝村の花一ツに吹あらし　豚

一至おそし　中立の儀　差生宿　代めく人　仮よそうふ、　契梅書

一至増　孤思　義の字　孤の別情ある人　字故友　昌寄花

一上陽人心
今栄　ほとゝぎすとかく眉をよせつゝ心細くも老よと宮小
別イ　はてとをいとゝもみ別よりハ六十の春をうらみる色
未来　又宿人もなく宮つゝ月秋の心細くもそわるゝ

一王照君心

一陽貴妃心
後於
かゝるみとりわすれてこそ物も思の玉入ふくらし
千仏　月もはも七日の夜八枝笑をも守ゐよりうえもまぬ
愚等　みだれ玉の枝も神ぬまて春と清める北くハ枝
未来　折ふし　神ぬる海の長のハ枝寄　寺林をのこそなく
朗詠　楊貴妃帰唐帝思　李夫人　漢王情

一李夫人心
風雅　又ても又思ふまゝ深花の袂まりつゝ形見ともなす

ほのかなる烟ハ
一陵園妾心
囘そつる松ハさほその老とて
別来ホー二年よりハ
松のそを囘て詠ムーモ
囘果ぬ古山人奥の松の
暁到月徘徊栢城尽ク日風蕭瑟
抄ニ陵園妾ハ宮女ニーつの君恩ぞもおつること絶よ陵園ハ
女とあんてつつニー人ニ九陵園妾とハ庵よハ帝王
前御の時ニ陵の片ワに文つくの宮女を葬り

一山ぶきと城云ニ松以白氏文集可考也
松八門ニ松のまおるとこゝ

一人九
後古
玉梁
新

ゐハこゝやくよハいとゞ老ぬ柿本八久ニ比新ハ永君の庭
古に波を苔のニハをとこまる柿のなとこまれ
古ニの八私云八と波ゞめて古ニ八柿のこと

一武士　鈴鹿山　むかし此関に幸寿丸　細代
吟　夫木　夏歌　風雅
浦よりて今をうけしもの、ぬ、都をまもりし武士のおもかげも
武士の矢田せよりる土筆もうと筆と残るおもかげもて
命をえかきにかの
そうなれ物ハ武士のたくひめの名のしるしとぞ
なりん後を思ふ長き　よ云ニ　名を惜むたぐひこそ
一夷　月清　於玉　夫木
八十路　千路かくる陸奥の名にしもうとき物ハ
我思ふ人にしられぬ陸奥の名にしもうとき物ハ
妻こそ物のおもひなれ和ときけいさみちのくれ奥よ行ま
七月乃月の末ま夫木ニ
一民　夫木　辰市　里長の
ハしめ刈　砧　君をこそ
綾於玉　民安き世面の
綾於玉　里の山田乃早苗
姫川　衣手山寺ほ川よ雪ほそ
一健夫　弓槻乃宮　衣手山　八系　八代山　南　南代　船　鹿
萩　橘芥　椿　高蒲　水口祭　鮎吹　鮎笛　梁
網代　味漬　怡
綾千　まとろおろ菅のあを
風雅　ゆすらおろ山形つき
住居の分面
九枚

一奴茂の奴志は賀茂三室 神垣 玉垣 九重 柳
古六方 素盞嗚尊 綱手 奴の奴八つつじ おくつき
集来者 久々礼 よそ ほそ ほそ
万十二 まもる おろ 悟心も 今八年 奴乃奴玄 永八死ぬる

一玉柄
万 気久々まなつ山々 司てる 月 君をおも 婦比小
素 玉もころ 名な橋へき時 きぬ衣の 袂もとれさて
八 きをは小春 玉柄 つ一うそ 玄八初り

一総角 牛

愚ま おけまれの波 たゆる座りもに もむと 幾久 夜州
素木 豹のうち 美代中 ほめ 弁もとの れむ 玄 玄は 玄事
深民 のやまき 礼なり礼 笑を むまむこめ 同一 今よ もあ

一蟹子 板橋寺 百姿 朝度製 茅刈笛 芝生 こうの里
芽花 瓜木 麦笛

煮 うちへ ふら振 ふうろ 行ま よ 二て 小 家 まうつ 永
八 うち 心 よ ふ おつ これ 髪 を ふ よ を て むうひつ て の 神 き 足
八 牛よ 家牧 のうち ひの 吐 弟 八 深 よ さ と れ の ま る へ を き く
八 豹 そ ち 川 神 二 の う ち の 吐 弟 八 深 よ さ と れ の ま る へ を き く
素 うち ひ と 芝 て へ 永 日 て 仁 を や な く さ 先
八 うち ひ と 笛 無 の と ゆ り 八 み れ 氷 こ て れ
うち ひ と 笛 無 の と ゆ り 八 み れ 氷 こ て れ
うち ひ と 笛 無 の と ゆ り 八 み れ 氷 こ て れ
うち ひ と 笛 無 の と ゆ り 八 み れ 氷 こ て れ
うち ひ と 笛 無 の と ゆ り 八 み れ 氷 こ て れ
うち ひ と 笛 無 の と ゆ り 八 み れ 氷 こ て れ
うち ひ と 笛 無 の と ゆ り 八 み れ 氷 こ て れ
うち ひ と 笛 無 の と ゆ り 八 み れ 氷 こ て れ
うち ひ と 笛 無 の と ゆ り 八 み れ 氷 こ て れ
うち ひ と 笛 無 の と ゆ り 八 み れ 氷 こ て れ

集未考　百千名うみいてをよつゝまでに成ぬ
　　ほと〳〵きすの実名うなゐとよめる

一　茅川　後名浅子沼　橋立　くり川　義豆恵　小野　東路
　　むつの国　かつしか　駒形　面代
　　草茂ふ刈おけて山に花をうつす人の心をそふ
　　野大　山ぶきの茅刈笠の高き声おれうまのよろこべるかな

一　思とし　春日　并の蛍　花梅　夜の下弦　風と波月　玉津嶋
　　名苔　四とせとしてことを志すに行くすゐぬ花の宿も世の人の常
　　玉柴　春のみよ心ぐるんと思とし志すに今日いたりすもおきて
　　後千　おもよとしいさこに伊うんえきまよ　萩の花衣秋のタ云

一　友を訪　山陰や舟さす八月酒　詩
　　玉柴　山うけや友を訪ふ一夜かな雪吹風と波とはおもよとしろ
　　おくられて雪と月との道のなごめて楫もおそふ春の山陰

一　友を慕　杜宇　待　子　斉依　琴　酒　詩
　　名苔　白妙を朝ようけて行人の門田のおもに友をこふらん

一　父母　仏六中山　佳吉松　和子浦小倉山　難波津或市山歌
　　吉社の非　花雨　松ト作　春雨　桜　燕　杖　義

金槐
和歌
集
源
実朝
公作

玉くしけ二年こに塵も
たゝちの浪よ治て帝行の世よ
永宮の門田入ま世よいつ
夕立や雲もとゝろに雷もあり
時雨ふかそいろのうつ
ひをにまれる暗てふるやれ

一兄弟
字治 妻月 位おそ
たゝる声 毛八源氏
梢末玉のつゝを兄弟と
妹背山ふきそたゝわ
兄弟の中よいるるまの
むつまきいりさの山乃中に
源氏
藻

秋草 落会 空塔
物語 猫雁魚ニハラカラトアリ
心をつくしのふ後おもつり
おくのもよぬ迷ふ
ぬ夜ふけ
ふ

一貝 学歌政 竹林 直
梨棗 貢物 世の治 玉治 猿

一戈 位進 階よまう 登
裳をあらむ 世捨人 琴 花山
ほこ 貢使 遣唐使 衣

三體 欲字 愁傷 愧 不戈 心
不戈 明王 乗 多病 故人 踈

一帝大君詔　禁中部　御世　龍顏　治代

一万　むかしきのふの代さへ今朝　君が代も天津こや神のまにまに久しくとハ
古今集　後撰集　治れる代の古ふるしと山里にたゞ一人のとうにたえぬ
後撰古　世を治民をたのしくぞ思ふ　おほろかる人をもとてぬ大君よ世を
後撰古　思ふとて永き年の園生をあれたのめ守をえぬ人も明
一大后　親王　関白　大夫　千木
万　鳴る山よりも高き積ふ雪　公ぐち
千　窓ふきさゆる灯思き夜半の風

一禁中百歟　九重　桜　橘　菊　女郎花　竹　蘭　霞　鶯
平上　霜

一平上　霞　雀　焼　おぼけ　声
源氏　雲のうへをかけたれ　雁　橘　物忘れ　秋の夜月
門　雲のうへも同じ　秋の月いづく　浅茅生の宿

門　軒　垣　行の雪　生ひ
年中　みとのの二夜うけ　あけ君　おつる　守　受

一禁中百歟　九重　桜　橘　菊　女郎花　竹　蘭　霞　鶯
平上　霜

秋を　まつ　これ　まの　雪　もみぢ　おやま　雁
物語古　十夜　ふれ　花　ゆふ　松　萩　ふみ
今仏　しぐれ　一日　菊　万代　むすべ　ふたの　むすべ　なれ

一平上　霞　雀　焼　おぼけ　声　朝
源氏　雲のうへをかけたれ　雁　橘　物忘れ　秋の夜月
門　雲のうへも同じ　秋の月いづく　浅茅生の宿

一宮吉宮 仁保 春辛 老梅 寿 奈良 類化 夏栗伏見 桜
梅枝 絢う 百千鳥 つとめ 玉戸 杉 池 灯 舊
孤 菊 琴 笙 笙連
万 きさらぎ
玉吟 月よそふ 文人乃友 こゝろも 雪 ふれ〳〵 雪 住吉 まこ
愚等 ふと 〳〵 文 まこのよ 柴刈 雪 もる 雪 おやめ 菱 もり

一階 階橋 橘花 梅 梔 風婦人 星の位
於玉 九重に匂ふ 花 〳〵 こゝ ふく 〳〵 教よ 教 ふく 〳〵
未来 ふく 〳〵 のへ 〳〵 ふく 月の 階 わかふく 月の 階 舩

一至清 橘 劔 仙階橋 仙名
綾千 色を 〳〵 におふ 〳〵 秋乃 教 ふる 共 形 と 思ハ
約千 九重 〳〵 ふる 〳〵 名 家 を ゆえ 契 ハ 更 〳〵 わ

一蘇姑射山 浦 浦子 千年坂 老木 呉行 椿 花 桜
巣 雫 万代声
彩は撰 波のよ 業 求め 人も 〳〵 はこの山よ 名 よ
未来 千世 松 ふきたこの山の 名 を 教 正 そ ふも 父 そ ふる
門 雫 なたはなの山の月 教 よ 〳〵 わ 玉 は 浦 波

一四町 数化 彩 時めく 春秋 角よ 筆末 字柿 教 ふ〳〵

深民　卯花　森松　雪朝
心う〳〵秋まち宵のもみぢの風につてよあもよ

一仙宮　菓盃　玉臺　千年坂　石床　苑　碁　竹林　谷戸
河橋　拾木実
協川　豪て行露乃を風に
門　まれもいさ乃人ありあんおの〳〵仙山
門　桃の花おもけきこ谷に
未　ふるくんこゝろをう勤
仙乃裁ぬいもをぬ神
杜律　仙家大吹白雲間

一君仕　花乃神　清まれ人間悲笑　月花も尺恋
春今　ふる〳〵亞園乃花川今こゝ君につてよ川せと
初古　卯てこ汀のこほ
等　よるひるもう守つ
（春雨乃後や一ぬん

一君を祈　今を思　翁　神司　伊勢神
初古　大方の秋乃行光
門　きこ残いのるこゝ
初は　榊りて八乃百ふ

一殿　居所部
住江　花　神楽　ヲタ　梅　町　池　糸竹　多　主従
時めく　門　さくら　庭柳
絃は撥　おもかげ　ほのぼの　ほととぎす　ほのぼの　ほととぎす　ほのぼの
もち　あもり　あやめ　ほのぼの　ほととぎす　ほのぼの　ほととぎす　ほのぼの
は櫓　あやめ　ほのぼの　ほととぎす　ほのぼの　ほととぎす　ほのぼの

一鈎　殿　滅　水　薫　見月　梅　花　漆　管
釣　千
立　千
水　面
川　人
夜　井
衣　年

一樓　戸　淳月　松　笛　滝　梅　花　雪　鐘　南風　夜　舟
万　春　川　波　河　風　ほのぼの　ほととぎす　ほのぼの　ほととぎす　ほのぼの　ほととぎす

未
立のぼる烟ひとつ見ゆる岸の庵ぞあはれなりける
可摺 終身數相見 子孫長作隣墻人

一囲 夕桃柏露 良材戸扇 令衣庇衣杉 埋火
蓑掌 厂木梁 梅竹垣 崔玉斧 人待
窓あけて山ちかき園の内まで
栞 雪ハ松や月ハ灯かくれもなき夜ハの友
月隔 妹と家ぢやの風ぢやにいる秋一日ちがひの新そば
未

一笘屋 松鴎 雄鴎 象潟次戸明石 手附 多右 田美鴎
吉江村 音羽 菟硫 千鳥 螢 鷺 和帯 九近 田
鉄終 心ある人ハ稲のかをりも匂ふまでいふ山ほとゝぎす浦風ぞふく

愚案
未
門
八月廿夜のくもりなき月ぞうらめしき
行秋の海や泉殿の笘すゝき
名にこそあれまきの戸そゝく短夜の月ぞ
栞 秋風の吹
未

一畠 山類部 ちから 玉葉 旭 庵 下葛 立葦 伏猪 沼 岩藤
獣 細石
いはつゝじおほく芙蓉芦
行山ハそゝやくものこかひ乃又ゆふ山桜いよ〳〵うす世くもれ
松を 畑や茅

未
に　むりにおろそかにしのかたでひ
古枝の神　乃ち秋ふかうりが木のたてるも山ー　畑のやけ山

一　潟山　照射　庵　梅　屋七　雫　桜
風雅　夕附日木ごよく咲く　蜂乃こもの庄八今うまーー地
秋六　日ごと山ふみのたーー来てうりきの花のほうを

一　山守　志賀花園　桜指　尾上橋
秋は櫟　いくつとも吉神の山乃出ると花のしうとよいう秋
門　表風に咲める花乃文未守おうりうる玉風宮のしてを
古六　山ぬーいけるーあると宮ごを吾妹子ふいてん表めを人とうふそ
未　覚氏寿もる氏文未る山まもめりむうーこう集

門　ち宮の花に訓ちる文未寿風志川の志序志やまつ

一　山姫　音水　柳　唐神　網布　芳　鉄錦　花　根　八谷　神ち八の社
仏機　秋仏機　秋古　文未　門　南
山八めの滝乃向来やうむうち山ふめぬさをう神八袍と庄る
ちりうの神よたむうち山ふめぬさをう神八袍と庄る
千とちり雨くちりて秋の袍乃ふ秋うむん
山ふめぬさの退風吹うさ千ろ乃八海う秋の紅葉や
葉よ深袍ようちう山ひふの如くふのふ秋うふいる子ん

一　山彦　音羽　神風　ち　間　浅間　岩風　七夜　庵　七更　衣歩
表付文の奥　時雨　袍　ち谷　文未り　松人

万
木を
秋
子仁
門
雪こそ
何死

一洞線間
雪洞水鼠　承立杜　魚尾　桟川　飛　山伏　檜原　枚
横　霊薬神　世捨人　石切　菖蒲
秋
未来

朗詠　洞中清浅瑠璃水　庭上蕭條錦繍林

一村　小舎　其余　作物中山　葛城　芒尊　木尊　嵐山　桧
琴　酪　旅人　史　名
未来　谷舎　寺　山荘　滝　嶽　晴雨　雲雨　厂　采　木栄
門　山川の片乃和名抄　谷久り汁椅
門　伝法七ヶ箕の椅と中ま上「菱ぬそよむきそ代り汁椅
門　足川の山乃行合よ晩の雲の上ぬむ峯の分けて
千早振神や新ん久りけりのこふそえぬ物を布留立桁

一巡　春雨　岩清水　立来姫　史　松　元　菖蒲　川
井筒　梅　柳　斤閑　山彦　驚　鵜

略
未　行山のほき氏さか田を打つくまりかまのみーふつくん
行沿入小さくてうめの米車そめうつほきのくれ式

一九折　山峯　晴了山　絲北　樵夫　材　水山　くぬ　隣を待
ヲ　ほやきた山西のそらおくる人絶てうれやーぬくん
未　九曲乃行ま乃沿そるにまきるそもにまきるそもくる

一校折　春竜　志賀　君山　花山　二條　むやーの関　きぬ山　旅衣
行　乱名もきうぬるま春声　けま人
置ま　系といへてあくの山ふまろりき未校の住ま無
仮ま小校れも雪にうりれてるて俗ま賀の半華
おやまも先ま乃にくまれ是のむり合流

未　たまそてーて行就ありれ今もて永ゆりーも
　　笄校れ半の小校をかるこそ果およそぬ奥のき山木

一巻水辺部
松　中川宇　山堂　巣抱　浅芽　杜　五月雨
五吟　雨後せく名張乃をうよまろきりめてよ産柳条
未　きてそれなきの巻水苔をしてもくもおて宿ぬ
　　山岩乃ある山橋乃ケ行そるやこまの原産のやト水

一柵　音羽　契茂　毛名　大井川　立田　三室　山川　槍　麻
未染　千ぐさ　玉も　ゐ萩
愚子
千五百
菱家

一水車　宇治川　田川
未　　早き朝ま
門　　秋絶ゆる白玉に水車せよ家をてゐち社や

一堰　鈴鹿川　柳駒　槍　山岩鴨　愛
約六　五月雨ま丸き流れ大井川之春風の井関落す斗よ

一筧　谷戸田軒　寺　庵　苔　山水
未　　名を坂乃笑の水ま
掛　　老井のうけ八雫ハたゆ八ぬいもと老にはある宇月の頃
門　　山里の筧乃水の世ゝきにれも卵の月うやとれ新

一井杭　泊船　水薬　掛川　休み中川　之氣　武庫川　勝方田
玉琴　　花山駒　五月雨
未　　山川乃井杭の上共
　　なる氏の長井杭の新

掛川
約吉

一瀑　五月雨　夕立　村雨　蛙　泉水　戸花
古六　ふるさとも　ものとも人の神さひて流るる水の
吳春　君もまた　よを乃川　ふる川　秋の初の月
梅之　や宇よもた　のまさらん　ふる川を　紀之
まるめを

一温泉　湯帰　有る　明石　三勝　住吉　無地　まし
乗家　伊豆出　和田浦　西海
梅川　世乃人の　玄乃庵の　業とや　七くさの湯を　浦かつるらん
扇よかきを　もし
五栄　ふきてそ人の　ふるさと　絵馬を　もとめ
湯治を　乃人

一潮　雫　辺
古六　川沿ふ　ふるさと　ほむかう
春来　うしろむ　跡のいりね　舞
門　潮　新京　かまもの　ふるみ　ぬまの
ふるさと

一舟橋
春来　ほそ　行のの　総社　小舟　ふる　不二乃川沿
門　ふるさと　よおもぬ　天の　交ま　かけて　ふる　舟て
山桜　花の　ふるさと　細谷川の　花乃ふるさと

詞花 久雪に仏みの舟橋音をくる別の跡乃はるも
ケ 東路のさよ〳〵ふけ行夜の月

一岩橋 久米路 高城 田池 寺 社
千五百 あさの川せゝ岩そゝぎてたゝ〳〵ゝ
走本 かさゝぎ井くまの岩橋たと原まて不もしら寺原京紀
新古 ゆく〳〵を思やりてう忘ぬ宿の苔ぬ岩橋

一丸木橋 洞川
ラ 思川ふて丸木の橋うく
千載 おそろしやは波の乃跡乃丸木橋ぬ
家 ふる山桐乃古木玄丸木ともれりや契の音よかよう

橋川 柄よ〳〵人もかよはぬ石上布留乃沼よりふて丸木

一小舟 三賀 幸浦 麻逆風
走本 吉野川大夫人の御ゆよ
続千 橋にはふ玉ー乃ー乃を大夫
生二 おくの海よ小舟ふ〳〵ふ事柱ふ〳〵歌の名八風て世栄紀

一渡舟 淀 富士川 角田川
続古 花の名乃おくれぬ治よ
後拾 君乃代にあふ川の渡舟むふの着ぬなりとそふ

一夏舟 堀江

未　志ら浦や貢ぐそこのほら舟を梶志けぬき月はこくこ

一朱舩　宇治　湖海　小笹原
塩川　梶はらわらしき舟の溝かくれる歌をえ写
宗　笹舟入ことやまうら梶ふさ
未　志ろ〇をまかようけをゆ志て西乃宮人風条しも

一舩　塩江　八井川　六田
続法　ふれさて淀の汀乃落氷下よう歌くあるへぬ世我
幻栄　たゝせんすさくの川系のくぬ木ゝ〳〵栄ふれて秋のこれも
未　梼乃老ゆかなすめろき風舟歌よ歌ハさせる
お国

一朱ろ舟　難波　綾浦　一味
未栄　秋深よ八十氏川の早瀬に流よ幻系ろくゝ深朱ぬか舟
未　かつ〳〵まくの浦八乃沖はるゝ朱のろほ舟庵ふをゝ
川　旅ふゝろ物ろかろゝき山ゝの朱乃そか舟沖さくく名

一朱小舟　洗浦　綾浦　笠縫浦　小黒浦　義豆小浦　梼山
入江　栄
建保　打返寸渡名の梼乃破法よたなゝ小舟引をゝ
心まもう寸たなゝをゝ舟溝乃下栄をゝ指をゝろきくゝ
吹のよ　吉野川
狭衣　行ゝ〳〵心まゝゝ氏妹背山おゝ〳〵ゝ我ゝゝこや
卓令　塩江なくなるゝ小舟てきゝ〳〵ゝおゝ〳〵人よや志海ろん

仁勢　芦辺こく舟を舟いくそ艘行ふ〳〵ふ一家人もを

一藻刈舟　高羽川辺ふ舟　狭衣　そう舟杭渕によこたりて水ほき里のあはれ未　藻刈舟帆つて走り縄心をよりいやちこ風よ浪よ

一入海　玉野　汐満干　舟　紀の国よ浦入うらうらつて屋と松もう北天乃そう〳〵と〳〵杭入海をく成よ〳〵下淀名のもう乃さうれの比

一入江　大〳〵伏見　明石　芦鴨　蓮　舟人　玉ほ路書り紅入江をこく舟の浮ふる玉もふれ玉ふ

古今　新古　未

大井川入江の松もるもとんか京の華ハあれーむーも
うらう〳〵吟ふ玉ふの入江乃淀の女に尾花淀よ原　秋の夕ふれ
杉はれ田の入江乃一そう乃細も月を抜ト二原

一魚　魚之部　伊勢海　桂川　次入江　宇和島　松阪　車ふ玉ふ
復川
永遠を魚ふ玉ふ渕の釣をれやうけもひられて歩へ〳〵こ
雨ふるたのきれさるる乃水たまりるをいまれ程をれません

〃　塩ひの浦まにつゝ小舟こぐも
　　みつの岸のへに行水めぐる
未　白ゝ〻の奥の山舟乃内ゟ入一社世我法
三體　魚　依　沙　岸　導　蝶　寄　洲　流　機
朗詠　岸白還迷松上雪　河伯以魚為民　鶴　潭　觸可等藻中魚
　　紅魚　錦魚トアリ

一鯛　鳴海　堺浦　紀海　阿漕浦　吾妹子
万　水江乃浦嶋ゝ子ゝかり鯛釣ゝて
山家　霞しく波の沙をとゝかめ桜たいつゝ沖津おはゝ
約六　水も月や君ゝ情よおふ〻ゝ鯛小今もゝゝ
未　桜たいそのゝ名もれやまゝ柳乃系我されてやへの海ゝん

〃　小たい狗かるものおもゝきこれゝ浦ゝゝとゝ弥ゝ生夢

一鰱（ぬた）　千浮浦
約六　秋風のすゝきそよまゝ田おもゆきゝん人の心ゝ社まれ
〃　更ゝにつるおまれ友舟さゝそゝおよ卯の風ゝ流も保
〃　秋乃和のぬけおの浦ゝ舟都ゝてほゝ憂れ鰱狗ゝん
未　あゝゝゝゝ乃若江の浦ゝはゝゝつるおまゝやゝゝん旅ゝゝ
三體　聞説故園香稲熟　汀帆帰来就鱸魚
鄭　羨　尊　方　熟　魚　肥　蓼　正　紅

一鮒　志賀　西川
古六　沖へ行ゝにゆき今や妹ゝ系ゝれ系藻伏束舗

鯉六
[illegible]

一鯉　宇治川　勝万田池　椹川　溪舟　玉も
古六　行水乃[illegible]ゐる[illegible]きハ細のひと角をうむ[illegible]
鯉六　淀川ハいにしへ[illegible]原鯉をえよ[illegible]せハ長いけま
門　水舟にうえてひまよ[illegible]いけ鯉の今まハ[illegible]
未　こゝもとこゝもとゝもかくこゝやの池をにごすな[illegible]
田機　鯉魚升龍門寝成龍

一鯨　越海　難波之大舟　荒砂　玉藻　八隅知ふ君

藻語　潮吹ハらのいきとゝゆるり
集未考　なるらと原かゝる海の
三體　鯨呑洗鉢水　犀鯛點燈船

一蛤　岩根　洞窟　蜃
万　奥ハ深ゆき深りてうつくしき
納勒　いさゝまの朝なゆふなにかゝりてよ蛤の貝乃汁ありて

一貝類　三渓　住江　奈古海　伊勢　松山　由良湊　難波　入海
和名抄　松山の松乃浦ゝ見　石川　大淀　長渓　荒砂
松山ハ高
淡ハ撰ハ　今更よたゞもさえまさる波の寺乃入相の貝

一龜 吉川 大井川 立田川 宇治
綾吉 百歳ハ亀乃上ニ立ル深山ニ生ル千代ヲ亦ハ萬代ヲ経ル毛衣
之仙 川魚モ今一万代ヲ法ニ住ル為ニ行ヲ積ム芝ヲ運ル魚ヲ君ノ為ニ
未本 今ハ 川海乃ホトリ迄ハ泳ヒ来ル魚ヲ餌ニ求ヲ池ヲ
於ヲ 築ヲ亀ヲ宥ヨ亀ヲ池ヲ
田楙 ヲヲヲヲ川ノ亀ヲ千歳之亀浮蓮葉之上 亀巣蓮 抱非子

一守宮
未 ヲリヲ行山下乃乃秋の久ハむ亜ふまつく下之ま

神垣やいのる折をおそ久れと井志ハ下打やハえゆく舞

一海老
未 海鏡 蟹 爲 腹 水妙 蝦 爲 目
今ハ永世残うまに老ハ
人乃ハをこひをこせさるにまにけ九ると
弥栄 世の人ハ海乃翁とよめれまもなくもなる

一蟹
未 横そ一ぶ芦乃ハかにの雪をおもふ宿
門 芦乃ハ刈田の原よりいちもつたも世を渡る
四楙 蟹螯酒盃左手ニ持 蟹螯右手ニ持酒盃足樂

一蜘蛛　七夕　秋分　寒垣　あやめ　東宮　南宮　女帝　七夕　女花　萩　妹
色作　忍草　柳琴　鶴　梅　稚姫　を妻　豹　鳴　沸
夕露
秋風を吹なやみつゝ永き夜のあけくるまでも壁つたひ
なくこの糸すぢにそゝる蟋蟀の声うきまくらまで
さそふにのくもの糸筋世々ふりて絶ぬことぞ玉津嶋姫
笹かなのうへにもおくもおなじ宿に宵世々かゝん
行岸まばゆき朝なの夜よもすがら笹うたの宿
うら山一筋たゞ糸にうたのつもる夕安よ家作る糸
三體　荒簷數蝶懸蛛網　空屋孤螢入燕巣
田植　蜘蛛集而百事吉

一蝙蝠　扇ノトミスレハ夏ナリ
まま　人もなくなるもあふぐうらみ添ふてハしかほかも君を思ふ事
捨　かうもわれ恋も戸ざしぬ古寺乃門かもなくまよひ入ふく
千歳嵐化白蝙蝠

一蟋蟀　秋ナリ
家集　半乃子　家ハ杜を正伝の雑俎のかゝ

一蟋蟀　秋ナリ
玉吟　鳴虫よりかすかにほろ〳〵と露の海まよ虫やすだく
秋六　浦よりる玉もまきふく風を夕
捨　人をおうみつるの風おまつ刈もよ虫の名残忘つ

門　恋を出ぬ戸ぞ六月の
岩蜘蛛網鎖硯蝸畫粱　田横三蝸成字
莊子蝸牛角上爭何事

一白魚衣魚紙魚青文塵
いつくゝ打ち文も月日をおくれなき恋故捨られぬる深

一諸虫
秋を独と打る人とし虫ぞうき世をかくれ忍ぬ

秋六　本ゝり也
未来をこゝろとしてとゝろりとゝ木をとむ〳〵ちれてほきれけをやく
定　野虫
すだく虫とぞなのやまひ奇とれ鳴秋の北虫の声よ
讒撰　忘打也
灯の宮打虫八羽音ふ秋やまもきくそらもきゝて
家家　秋虫
秋乃夜ふまとかちふ白露ハなく秋虫のなくこゝろ
鉄古
川也八声も音そゝ悼の羽八いと落き羽も苦一ふたく

一鳥之部
蛍宇治奥海　桑川　桂洛　玉江　桂三洛江

山家　秋風よ吹きとよめ　古畑　杉谷　檜原　岡へ　梨木　雨
未　　人々よ山の手も気に　山中　村芝　古宮　藤　柳　柿　時雨　山里　竹林　松
門　　親をと思ふ鐘のつくさに　秋の迎へ
　　住吉山木立のそこに行てもそこからやかへ　尚羽

一旅宿　梁脇　二村山　忍山　更ふる
秋六　　人とゐて山のもみぢも気に　雨
雪后　　親をと思ふ鐘のつくさに　秋の迎へ
家　　住吉山木立のそこに行てもそこからやかへ　尚羽

一旅宿　角田川　牛込　二代坂　和田垣崎　志ら海　晴
秋六　　古里
雪后　　吹風もものとけき入江の秋を治れる世乃とやとハかり
家　　舟とむるなるこほりの秋もらも
　　越乃海むれてお客とも

一雀　多羽雪　小暮物　残り八田里行　雪　川田
協川　むれ　原田中乃宮のいる雀永らひらたちちく
於玉　新もゝ人待宮のくれ赤よりろ雪い村雀る
新六　萬尓一ゝのゝ笹はさゝめかくれなそ咸紅
未木　ゝゝ　ゝゝ色乃竹のむすゝめ竜をもおとしたのむこゝろ
集未考　雪のみよ、もめひなる多氏おう原乃門ゝ雪笑侍
天武天皇の時築紫ゟ来ヨリ赤キ雀ヲ奉ル則年号朱雀

一鶏　古万　春芳ゝ　裾ゝ花　巣　鹿　月　猟　尾上　衣打
狩衣
後古　雪の居を山ゟ氏迷様ろ乃赤ゟ雪乃て乱笑ゟ

玉葉　山ゟ乃ほろ〳〵と鳴雪色きけて笑ゟて四毎ゟて四
新千　ゟたゝのゝゝるの鏡ゟけをゟくゝを山をもるとや鳴ん
新古　ゝくゝるゝの山ゟ氏尾乃ますかくゟけて生ゟ原秋乃雪月

一泉　高野　山里　古官　鶏巣　松ゟえ　老女房
於玉　山深ゝ中〳〵女ゝ咸ゟくゟ小松実ゟゝのねくろよ乃色
ゝ　物おもへゝ木ゟ比杜にふくろよの若〳〵きゟとをゟよゝえ
古万詩　林　暗　鶏　吟　鬼　庭　荒　雀　嘆　蛇

一鶏　冬山路　美佐　吉竹　萩原　朝雪　寒き雅
玉吟　山里八松ゝの老〳〵人ゟ雪ゟよゟ谷ゟ細乃
未木　風とゟゝ田中乃畔の山ゟゝれ松ゝの此よ鶏おゟ鳴

門　雨ふかんとのの去ゝうほめ下嘯ゝ雲乃山本

一鶏　立田逢坂　原ゝ別　清秋　梢関屋　云ゝ神垣鶯
於ゐ　まつとゝゝくゝとをかし　ーーー花山ゝ志ゝしくなゝ氏ゐゝ
まゝ　時ーもあれゐゝ暁ゝ原朝ゝゝ木の花ゐゝを風ゝかゝゐゝ
門　関ゝゝのゝゝ分ゐゝれなくゝ麻のゐゝ原ゝゝゝ山
称者　清ゝゝゝくゝ舟も関の戸氏ゐゝゝ音ゝや知ゝ
　鶏既　啼鶯　未出
　ゐゝ星ゝゝ壱侍ーゝゝ有ゐゝに年越ゝ祇
　鶏人暁唱　壱驚明王之眠　心を小杉院
　ゐのゝゝゝゝゝゝおゝろく五実乃妻
　ゐのゝゝゝゝゝゝ

一木兎　行山　岸庵吟　松嵐
　　　

一 諸鳥

松川かいろ　夜ぶりうみを山乃稚木にかり　を吹所茶会く
未　れる　白山乃杜のこまつよかくろみへてやまこに　まめるれのをハ
山氣　ひと　遠せまく　ふとく　林と思ハゆ一　柳のめも　正ひとのむくを
玉吟　きつき　右よりくる杜の梢ようにくらきてきこてお守かなる寺つきハ
未　ひる　もむて　岳表ひくるの水さきに校ふくるもなの山吹
門　いろう　表の白乃本原にかをしむ山里に物あれをふいるる民色
門　うよ　みちのくそとの淡を深峰子をる嗚ちる声ふうくよ安方
門　果行　表公る　もおいる落く原いろ代なくてにかふ思ハの行方も附
未　松村　を山米の雪ふるまおわうきてきて彩をにつくふ松葉りね
門　つる　もも　みさまに物を急なる山乃行乃彩くふれ乃声
門　みど　おれとそいとやちん表の除をかをすおよむの門一心と

門　朝まさ松ゆナうめてたくなほみ世る虫のをみの七
門　をてき　ハつぬさに表れ果るまの深を失おちくふ春く
大家ふ　山るまをかの久白かくやきて桂田ようふおこねを
果行　ふとる　嵐吹を山の奥乃このをる
陳ま　るれる　みをる珠いおおかせるをを
門　うやき　亜表れもてちて路のいう尾花の末にふくをは
門　おやこ　鶏部とよもふ工ものくれなるにおーもみちの紅あれる
彩撰　ふか　格るの流乃下乃ももまれて浮世外と行うくれり
阪松　かめ　踏こそ表れなくし枝若乎なほ日比陽の池水上永をお

獣之部

一 鈴る
未 山ふところのもるけきにふれるをも今始てきく
門 たつのるをあれを求めんあをによし奈良人妻
四楸 車如流水馬如龍

一 兎る
伊豫山木立もそよそよと夏のうれしき
未 山桜まだほころびる人数よ
朗詠 車前騨病駕駘逸 架上鷹閑鳥薙高

一 驛
梨原 次广也淡 かこ後 幡広 関 納 旅 砧 簡

未
彰考館
手伝
朗詠
大和
愚案
朗詠

筆松 北安 广役 彰思
非もこそる宿のつるいおれと沖のつふは歩よれを行
ほそう山もまやは仕えは関越て并日よあれぬ古里の里を
名坂の関乃をなる生子えよ駅伝のまさきくきこゆく
東路乃木彼の関を原鈴虫をむまやよ旅と思ふる小
志の涙のむまやと待俺し君ふむまやく成て繁
旅衣旁夏の山めふんおりふしもむまやしや
漢舟火影寒く焼浪 駅路鈴声夜通山

一 秣
彰六 泊 あをみ井 井ま
ま草刈のこれて 彼岡 蛍 麦小芋 あをみ 岐
いめ百合の心るまやくまろ

一餞別　舟路　宇佐使　菓　酒　歌　幣　扇　尖

一猿　嵐山　大江山　冬枯　日吉　大井川　西川　奥山　木立　猪

一犬　宇治　関迎寺　竹奥　後家　悉通函　桃渓谷　山里
　狩場
　風雅　行くとしもなく宿をとふ人の里の犬ころ破垣地の
　彩六　くぼみなどに小首突こんでいそく砧の音を聞つけ
　素木　吠出すなどうるさくもあり犬の声遠く聞ゆる夜
　杜律　春日　鶯鳴　脩竹裡　仙家犬吠白雲間

一狐　古寺　叢　山川　杉木中　山陰　蛍　古宮　社　荒宿
　彩六　柊皮彩　古宝
　素木　人もこぬあれまくらべし老狐いとも昼のまくらひなせ
　花をこ原ろのほとれの古きつかれのなまよ人迷ふ

一猫　幽庭　見初　淋人　産養　若記云会泉院
　蝶　冠　枕草子云うつくしきもの　猫
　令ぬおとい　云うつくしきもの
　浅ちりう小雀の走りもてくるに乳母のとりこめもせず
　金米糖などにとりつきたるも
　真　猫の鳴声小犬の声
　夫木　真菅ふり下るもあはれ猫の恋
　門　夜泊や大あらしの君くあれ来ぬ庵
　門　相坂のゆふつけ鳥を求むとや塚をあれて狐なくらん
　三體　龍狐来哉　客　波鵜下　欺人
　田植　千歳狐為滝婦　百歳狐為義女

一兎　行基山　義　古畑　垣根　古杭

愚案 春秋伏氏毛のいつる比ほひ
又木 まよふ二月の末乃ち向うの丘にも
書三百 秋の空乃尾上の鹿も
集説考 文き秋の小萩ちりくと
杉鶏竹 免よりも親もちぬ春浅み耳

一牛
犂
鞅
門
耒

由波路 牧 繁き
総角 田中畔 牧
あまたもてる牛の
とし〳〵ごよの牛乃角なきく
なき人乃田のうへ
なの比乃綾の耕をかし

車 うるす 山水 山里 蝸牛

一猪
犂
鞅
門
耒

名草の山 篠原 畑山 尾上 萩 蓋雪 搗衣
若え 山法 谷戸
箕の水の秋の神
いつよりか耳洗人もなくれな山川よ水うよ年ぜいきもかるく

古歌

一熊
犂
鞅
門
耒

たえ也山 玉ゑ共荒也
白ノ非熊ノ非

岩伏 谷法 奥山 捨子 苔岩山

月清　あら磯の行てよ山をうしみやあにをうしみ未の声ハ
絵　白雪の吉木乃うへ乃ハ梢とくち山の麓も外て紅葉を
未　深山路よ行あくまぬもみぢを思ふ友よ志つく心あるへ
松　月影乃改乃木枯もろにかくよきて麓を友うてる風の音を

一鹿　書山　竹林　木柔　谷栖　草生　太刀　弦越原　嵐　江の
名め特ゑ
絵　誰も世よりたゝ狸ともうつくしき鹿の身をハ情
未　庵主のうへ伏鴛もあるこゝろ乃しんとりれぬ中のうちよ
集未秀　君乃ゝこゑ鹿伏史ともうつくしき独める夷乃うなるてゝ
絵　かゝる山の鹿乃伏木乃竹をうしみ世や世とおをれてゝ永ハ遠行
月清　世間のうへ狼も行ちゝ人志ロこうれはさゝとき先

一諸獣　嵐
子仏　なまれる月の嵐乃ふくる乃れそまことや保安乃今年戌
松　柳子人ま海て達も青をぬ古寺に狸のし社つくろう乃
門　もゝ松乃そよ松宮ろかもゝ原とも柳子乃塵よ指身ともる迷
門　山犬　いにたん友私あゝ乃山乃犬色おそみしゝ夷小菅笠
舞中　羊　そをふたゝ詠一並ろる庵主の羊入池をれやたつゝん
未さ　うに羽よハ犀のいき角迷ゝ乃神の用もをさうるやと

木之部

一梨 花ハ春三月武蔵野甲斐の根 世の中 薩門 拖 鶴 野山宝
幾の竟 拖門 軒ま
楊廉 山家 花のあるじもたつねこぬかれてもとふ人に世をもいとふ哉 雪古屋の庭竹さらに冬ごもりせし
山梨の花ハ〳〵雪 時よりあらて秋をもまつぬ夜梨ハかちく西の枝ちるとも
秋 秋 秋

一梶　七夕　玉札　軒
木犬　賛　梶の葉に八百万代と書付て彦星も君ま
風雅　国よたくぬ頭つよ蔵家振乃栄もろ幼人のとこ

一樟　依保　摘　大川の辺　志の屋　躰　妹
素　並立ふく松木ともに約とめて仲はう原ま川深ま

一梔花ハ　木幡山　恐山　耳無山　弥七　山吹　萩　雪
風雅　ちし　日もの久なよ赤ろうくしろも千夜泥ろき君ろ代ろ
杉六　ゑしれ乃ハもてう人ろ神ろう志の栄別てろ世こと
添川　口明の久なよ衣残深ーよハいこて心よ物を社おもへ

一枌　砥辺　奥山　時雨　雪　みさご
古六　岩やとよ称てよむろ乃木沙をそれそ音の人にみそろるのと
万　吾妹子ろ兄ーろも浦の枌乃木多世におれとろ原人うき

一栢　三室山　家妙　志めぬかえのまれ徒なのと牙波に久ろ
杉六　ゑしさけと人も正さめぬかえのまれ徒なのと牙波に久ろ
素　塚乃上にれと栢とよのゑまて侍んと翁原妹ろかーこさ

一胡桃　山うく
杉六　笹山乃志けそかくれのひめくるみかのてろまくの堤と君ら
藻塩　友山の正そ世にもけきろ原ろ来くる男いとまろ行て帰ん

一槙　泊瀬作ル　姥捨　春杜　仲秋　小堰　小雨　言興　立秋　雪圃　立春　水尾作ル　宇山　嵐山　守山　奥山　村雨　寺　室　秋村　檜原　麓　花抱　當麻　鶯　氷室　外面　常盤山　菩提　月　風雅　古六　秦　名寄

一菊　秋ノ異名トモ云　約撰　未

たのむ霜　いつ斗久ゝ　かるゝ　奥山　秋ノ末　名トモ云　千代の陰　もと　君と　ゝ百ゐくゝ　三笠山　千代の松　よはき　ま

六船　いそ〳〵　仰ぎ　ありさま　それ　草　生ひ　よりて　と　垂　ゝ　ゐ　ま

一樫栞　約六　〃　〃　奥山　瓜木　春日　神　ゐ　ゐ　ゐ

一一松　京極院　幸崎　鳴尾
玉藻　浪のよりてゝ作るの一松哉も幸ひぬ友もつゝみく
末　鳴尾吉保友なひ松ハほれ〳〵と独もくれなたてわ名小

一松村立　手附　春枝の鳴　春景　汗思　春日　大淀　淡路掛
合柴　並松　淀鳴　清見　信柴　小枝
談古
縁於
千声

一菊木　佛

古今　そよ風くうせにやるもよりも山科の文琵琶木とちゝまそのを
秋風乃くるよ吹くに音羽山伝乃琴木のとをうゝ

一諸木
増鏡　おかさてなお柴風のかしてさにひとりみちぬる小車志記
秦　嵐乳　下山のおとそよ神乃
〃　朝まさに梢もうつに喜たて、接桐の木もる村時雨ホ
〃　ふるゝ里乃山乃うけ改の猿横ふるゝよりも世残雨るゝ
藻塩ふる　山深き山岩よもふるゝ水なめんにゝ荒るさしいうよほと
〃　今庭大井川春風に秋乃楓さに山やあゝのいろ残かそふに
〃　ふれぬよなる秋乃山のそこにつゝもりも山もりの罪を思き
〃　小山田の苗代植の春ころ多ゝ女よいてよりるか那

門 まちの 君が行宮の軒ちかくなりぬるまちとてたゝ

一 蓼 多穂 秋こ 垣尾 村ある 川辺 蓼の穂の毛川なのかうらうらとして
秋に
門 又ふるまでに 釣もするめり 橋
来 たての柴も 抱一ぬれたよ
門 水なき川の川原よ立ち並ぶ
朗詠 風荷老葉蕭條緑 水蓼殘花寂寞紅

一 草之部

一 蕑 奥山 岩沼 湄江 杜ある 厂 古川 堤木 塙田池
小菱 ふるよ 高沼 鄭
ふるまでつゝぬる 雨
降 雲ゐ寺 仏山 池 入れぬ
ぬる ぬるよ 浜 ぬる
水ある 水ぬるよりぬる

一 忘艸 萱 住吉 天香久山 楠 翁 能軒 難面 心 化人 思人
愚 久 萱 垣
未 白菊の白い秋も 三 ま
汗時も 入 なくさま 舌 ふ

一荊　冬十　佐山　行圃　鷲山　乃幸　はる　神楽　あや虫　雲雀
　　晴川　秋六　我へ　なくまで　やちよ　梅花　一重　もろも
　　未来　秋古　我と　そよ人も　奥山乃　おとろ乃　乃あるも
　　門　　雲雨よ　ぬるに　世よ　おの　恵と
　　　　　我乃　埋水　来ま　神の　ころも
　　　　　乃　　ころ　　　　　

一莫告葉　和名浦　江津浦　志賀　二ゆる　玩球　籠　みさご　仔狗

妹

袋　待乳山　名乃よそ木丸　名よいつこうへ神

未来　磯の浦波のまもり神　名乃よそ木丸

〃　なのよそ木をまもるために刈あつておいつの浦まことよひ

一日葬送（狐をもと云葬送）　天河　雪残梅花　官人　まつ虫の後

狩猟　雪ふきまき玉田のやへの玉日ひかりやへ八重成ん

未来　あり〳〵と日数八蘊千代ひかりまもる祝ひ哉

一実蘊　あふ〳〵の出　立田　大江山　谷上　笠坂　数の杜　紫

玉吟　外の山里の秋ふかうつ原　秋ふかき　秋風うそ

一玉蘊　あふひ　八千氏人

未来　まかつ〳〵帝壱をへて八江山いくそをうけて当るよたち

添川　けつよこー心もあらつまかつ〳〵は向の神と成り姫き

公家　笑栃　安信卿　文戸垣

狩猟　いふかーて垣のにこそのまつ〳〵とあを妹よ笹そん

一藍　刈入る秋　志賀の里　山茶花

未来　分入もとのわら深ー丸うつ〳〵紅八庵おひ志花

一壁生草　花八夏之　志の原八四里　螢
　的古　仁のとかや礒よおもたゝさかみ名よそれよもたゝさかみ名

一雲雀　原八春　刈八秋　冬柳
　是行　めつらしくおいたきそ司風おるうこ鳴笠持てまうらを
　きそ　山川よ廻うる笹のあれを社こくみ滝よおりもまうらう先
　万　もとや振神の社一ちうとをこ春日の神こ雲雀ねいほと
　　ものを

一笹用　おいみの原　ますらおとうたまつ行をきる心ちする
　的六　村雨よ笹へ八仁しめとうたまつ行をきる心ちする
　まま　山ちりのむさをこつかくるさめ社衣の風と雨後とをさる
　山家　おやこの家仁しめのかきねにきん間の雨を屋うてふ

一射干　草七八さることあれや庭乃面にかく寸扇のなと書うし
　山家

一稗　的六　穂よ生ぬ夜田よ作ふく草のうれ七世をやさむ

一犬子草　春　犬のこ草まとのうこほよ生て秋垂穂八まやあらん

一仙前花　是名をりの花
　万　秋の神氏紅梅草の花それと春の心をまうやはるか郎

一 山橋 実ハ 消残雪 時秀 卯月
新六 秋深き山にとけ残れる岩ねの雪
未 岩ねこす山橋ハ今ハ雪ハ消て庵まで通ふ谷の水

一 須戸口 和多浦 千秀 時秀
嵐 音高浦のとまり小舟幾艘
未 三艘ほど漕出るよりはや咲初る菖蒲草
松尾 まこもかるこゝも絶ぬ須戸口の海や非代の浜も暁ちかし

一 木賊 信濃

一 薫 刈ハ 義章 玉江 三的 鴨 岩垣 葛庵 時秀
ちまた 六月廿 沢 豹月 蛍 下立 長 みく
歌
こくさ刈きてのおさきぬ神ぬれてみづぬるもまと垂
木賊ら深き原山ハ木ろよりみづれ出る秋の萩乃朋

嵐
山家
未

そも松ケ原の流ハうき舟泳ぐも笑顔舞さうし
沼水ま清き玉江ものとられぬを咲初る杜若 永
難波江のせゞもまこもも角ぐむ比ハ元社つゝめぬ
夏深ふ入江乃玉藻刈立みだれ蛍も宿をかりそめ
かりそめの角組よりとれ幸ち一振の宿をかる也入江の孤
山ちの伏ハ玉こも編囲ふとも見えず入江乃孤 雷

一蘭　小山田　道辺　造
　　そろそろ戻りお酒一
一葦　秋の小山
　　末　　ものたけ狩りを挽き残し
　　門　　朝まだ松が枝声きけば夜の挽き
一諸草
　　陳法指授
　　門　　ことのこもうこ、うたかた
　　門　　山女　ほろほろおり瓜まこおけひさ

一天　雑之部
　千我
　末本　隈もなく秋の月をめで夜を
　門　　名残惜しき秋の月をめで夜を
　　更ぬれば月傾きて夜もにこそ
門　海つばめ　めの前花くもりるかな入約數来落ん人やりとい先て華

一月　万　水無月の末広書て暑日ふもあ独り君よおいて

万
風雅
門

玉吟
集考
私六
異記

村くの梢の冬もうれひて夕日入山よ雨そそくふ
畢苗と降山て小雨よ雨情さく夕日の海を渡る浮雲
入かゝるをの夕日の入前消て裾よ行く蒲寿立山
おろ寺日も夕陰よ薄舟のまゝとまの山も抱しみれ
世間と行のまたとまりおろ寺鮒日待乃氏おきれよ春
日おくれの沢乃原国のまゝ解て待ろおろの細乃
おろ指入異郷の新をそ腸を染つゝ原去つゝ氏

一星

立山の後日暮行春 天川 小弟篠東 春雨留君
時取 杭 落雪 竜雨 雪上人 東雲 夕爾 志立山
暁窗 朝倉邑 月人男 天岩戸 神禾 蓮 君の齢
夏梅 友舟 掛釣舟 掛 照射 治世 立秩 北雪

舟跡 惜 鹿 風
明渡る雪乃氏畢の光まし山のえ雪一波のゝ雪
むかし てよくこれぬ猶の廣さに風立て畢有る雪氏落雪氏氣
門 そこれ行のたよ雪の姿乃よの畢氏雪 神乃七雨乃雪
風雅 畢くを晴くる雪ゝ氏乃雪氏吹とも七氏風て雪き
私秋 久今氏月乃かつ氏を行れて畢とそ乃原氏氏の舞処
私六 歸雲峡山のるのの久きくーー雪乃八畢やいくそのん
吉六 東雪の伏屋掛乃氏畢と雪氏男る君乃
捨 北の畢雪東の旅よ生ふ人をいの原むくそ雪ん
墨雪 る氏の峡よおいうくそ久雪のまゝれ乃よいのそうそ
未 時乃るるの雪井よそしもやーや握れぬの
榊川 玉川のの名に立る白菓を置さ原とおもい久原氏

灘萬　萬蟻戰来一　春日　五星明聚夜堂深

一横雲　未杠山　爰淳楼　二村山　志ら紀　小黄中山　花ノ有明
時雪　外山　照射　晩雪
外勒撰　月夜ノ雪ふる物ふ山ひめの雪尾ノ神や白ふ横雲ノふ
後於　山ひめの雪尾ノ神や白ふ横雲ノふ
まま　河上やまふ横くも雪薄みとす流よりふ雪ノ明反
〃　雪よりも老花の尾上ハ的的て松ふふふふ横雲ノ山
〃　ほのぼのと白ノ上ノ雪も明ふめて楼よ志ら紀ふより花の山

一朝　初雪　日新　釣舟
万　朝さむ八峰ふまくかみまふ　下略

一英露　萩
千載　秋原ふたそれ時氏萩
古六　ふや宮に若きまさぬふ墓深のたそれ時ふよふ姿ふん

一天人　七夕　鶴山　田子浦　志ら可久夜　三穂浦　富士　吉野
約言　山ふる志ふの楫音ふ時ふ二人ノ羽ふふも志つとそ又深

素　新ひふ花ふみひかふれは作約山ふれと雪ふ氏ふ雪ふ
〃　みさもふ浦生ふふれふ氏浦の汐干の深ふ雪ふ起ふる
集考　ふるふまに起つふれふ夜の西ノ晴白ふふ雪のみふれ
はや友のふれ村中ふ毛ふふ田毛ノ川音鳴ふる
志ふ立ふ読人今や立ぬふんひふ一ノ山のふ志ふふふめハ

素
明玉
義堂

しめ子う天乃羽衣乃ふも引連てむへも吹井の傳よおる迄
かうつゝいつかはりんそ衣の袖をきるつゆ石山乃ちて
天は人今やそれてなる迄んよりも公家武士あ下

一鳴神　嘉定　巻向信景　高羽　桜川上　ひき蛙次ナ
桂立山　久五　五月雨　親思　笹に風　たゞ人　厂香
長月時雨　関牧童　淡路　男女をいさめ
万二　高市玄武勇國戦ふ達を厂事をよろ
於そ　こゝく残おとりいかゝ敵の恵ふうと守を
古六　鳴神のまそうこと厂
錦繍段　関人倚柱笑雷公　鳳雷　牧雷　法雷

東坡　一夕雷裏饒刻碑　日　飢腸如轉雷

一虹　新治ふ秋雨跡　名ゑ　谷海苑　川上　砂雪　久山堂　笠嶺　市
風雅　虹乃立所より雨を晴ゆく　姉をのかるゝ　雪
まま　ふるおこそゝそ　厂
門　朝旅　折ふれ虹立秋の山　腰帰厂斜霽帯　水面新虹未展巾
二月虹初見　詩初生

一嵐　詢漱三堂　探　春曙　滝雪松為緊　若菜　松際滝
玉栄　ゑ厂や　良来ゑ　板葺　尾花　搗衣　虫　菓
山あらしの己ぬと思ふなれてさく軒の松竜

風雅　一夜さに山路の菊乃栄の志川乃に落るゆふ暮
宗　山路を来てなにやらゆかしすみれ草
未木　菫ほどの小さき草の花をだに
門　踏分ほどの道もなし
支考　蓮の葉に味噌つけ喰へあつい夏

一雨　三吟　此里　仙化　二葉山　嘯山　梅山　そよ吹のかや
万　旅中宿　蛙　滝　柏翁　田植　松風　水栄　寒き心
玄梁　雨もよの雲もさだかに時雨て　雲白くさして　こがらし
門　雨の星も横ざまなるよなぐもり　風の気色も秋の旅人
綾午　ぬるからと立休らへる松陰や　風のきり〳〵雨ふりかかる
　　ふる〳〵文反古にもあれや蓼の穂の　秋乃月も雲の袖なるきぬ

風雅　人ごとにおほくおほせの心ざしうるわしき雨ぐもの
宗　初花のしげきけさ見ゆ　雨ぐもの
協川　雲よ荒のこ惜家野寺よ　灯ともにほす蚤虱かな

一新雨　江戸　かく庵衣　神よ鏡な　歌　賢舩
綾午
乳綾方　雨のめぐみか　雲居よ代を　祈るあ
　皇恩天皇河上ニ行幸一四方ヲ拝ミ玉ハ雷雨五日世間ヨシ
　雨ふれと祈もるこの水境とや　思ひ定めし那

一恵雨　二見　立雨　水蓼　公益叔山　宇治　裏路　和田笠松　玉川
　ゆるぎの杜　在州　九月尽　蝋　桂　芦　萱の軒
　菖蒲　花也　仮寓　桐　橘　柳　坐分　梭尓　玉芦

竿松蝉虫抱萩北錦菱萩稲妻
旭吹蛍星合朝良卯花琴像
後纏
玉柴
風雅
玉吟
愚筆
秋六
寄雨よ雲とけてよ原東屋のみまくに荒る野の北

一岩屋 常磐山 水路 清見元 亀坂 箸松
閑雨 苔衣 山伏 苞抱 墨染池 月影
時雨 山火 雲村 世月 粉末 草庵 苔雫 うえく

秋六
末
万
谷深よ岩だゝる雲そゝらみて鈴ふ抱ある〻舞
古よ原いろは岩やよ行春をきぬん
そゝ落く久まのわっ子ら原三保の岩やよれとも
おろみも

一巌 亀山 君代 女神 基碁 菱松 海松 桜抱 薪
苔莚 松 滝 製 抱子
勅撰
玉柴
方よ
末
万代の秋を待つ鳴波ふ
相おもはぬ人乃心ハ山まれ
ふゝるとのいろ迄よ風乃立ぬ〻法
苔ふれ行〻ん波の花衣岩尾乃中に杉垂のふれ

一髪 三熊野 若崎

倉栄　石くろみあたりの物を君よみそのまゝと思ふ原ハ
未来　玄山ハ不詳こゝにうたへるハ此岩の事ゝ思ハる

一水柏（玉柏 岩ヶ柏）郡波　宇治川　入江　菅
未来　こゝハせ川おもてに妹と並て岩ヶ柏を流るゝ
歌枕　吉野川岩ヶ柏なども多くよめり此山ハ
紀行　神風やいも背川のヶ柏志つゝみとゝもに葉をも

一玉砂吹上　浦　吉海　富士川　紀海　淀川　広川
歌枕　為雪　和ハを　庭みさゝ　松　神基　君代　厂衛　法之　金星
　　乙る玄よめり　きり〳〵す　白妙の玉砂ハ立る幸浜の松

一小石　風雅
未来　神風やみもろ川のさゝれ石君ハ千代ませと祝へき
〃　いせ海ハ荒きをえらばれよさゝれ石をえのくるけて物を思ふべ
〃　沖ハ風吹よ浪立よさゝれ石君よろづの数を尽

一山調　淀　雄波　城
　　老曽杜　くらま　二万里　鈴田　春雨　玄坂　笠坂
　　南海　馬　氷室寺　君代　民可　新葉眉抄　車

六佑

治れる代乃貢と氷魚を大宮人よりよ治よ
貢をのそふ千舟も漕生よりあ乃泊汐もかるのぬ
ゆらぬる七乃乃の山潮乃海山乃けてれくいめをとちき

一政　彩六　悟鏡　まま　門

田子浦　百首　萩戸　年号　蘭芳
ほとゝぎすけれと代くよをぬ、変治の
永正めと寛一七も乃一山里に朝政おこてとゝ
呉弁の世も治しかまつる学をも西風のと
教をこめて敷政ゆ乃今もほとけのそうおこるよ

一元服　母　つるみ衣　あけの衣　いそよ玄栄　孟　七英笑
添乃　民栄

門　うちのぼるそをちの髪を丸立てまくてめりよ測せりろな
等甲　むさ乃のみのとゆりいと、正　君乃代乃年千と紗をうよひ人みえ結よむ玉ひ海
ゆ

一女結　形見　後乃撰　城川　ま

筈乃ゐれて水をそえ小むとそれてゆものあやそ
なゆいの中なる原さのさらにさらに知人うきき
もうくゆ○ふかなゆいもおうてぬ色の巣の玉と見また
りとゆそ乃髪をもうくよいおうくと思
老ぬれえまうえ結よ居春のさてもて年と笑やいまま

一白髪　鏡　雲　音亦　古文　一枚　三世仏　依の君よつよ

琴　落滝津　この水上年つゞれ雪降
　　俊朽　卯花いさゝをもつゝみ
　　素　　垣ほ
　　　　　かゝゝてゝ

一髪　おもて　梳　形見　洞水　秘書　放狗　滝糸　霧
　　葵　山茂蔓　し女子　井筒　稲妻　吾妹子　女郎花
　　鼠子妹　物恠　柳　海玉　掃部　石鏡
　　梳もゝ
　　振かゝ

一箜篌　花賀　月下　歌　階　酒　法事　庵室　舟　玉垂

一琴　八幡山　逢坂　川明石　次声　宇治　文使人
　　雪井　酒　山水　月笛　七夕　蝉　爆声　玉章
　　柳桜　花筵　虫　松虫　菊　朝倉壱　宮屏風
　　軒雫　笛　宮　相思女　流水　馬上　琴　庵室
　　九重　舞　池舟　古
　　六歌仙　立ゆる雪　神代　今も絶ぬ糸竹の声
　　神風　川　絵　糸竹　管
　　終歳不聞絲竹壱　杜鵑啼血猿哀鳴

一琵琶　の時あぬ雨雪　雷

千載　六月十日の夜雪今ぞ乃ち降ってくるかと詠ぜらる
乱雅　絲乃雪こそ降ね天の川
子仏　松の音をとてこそ琴の調べかな
山谷　緑琴蛛細遍絃絶不成聲

一四緒　雪下水　入江月　天人業
玉吟　ふるとはつる君こそ白雪の名をも上ぬる
釈後古　ふる池乃半ば月玄新ちわも打ち添ふ四乃絃の声
琵琶行　大絃嘈々如急雨　小絃切々如私語

千々　三枚四位江琴　松風隣家風爆竹子神示
物は撰　ばし阡梅薩男　独寝悟化ぬく子恵寿麦
塙川　妙乃塵　後ろ宮　美人池井　雪雫階漢茶波
未来　他国よ通　慕よ詠　天人立明
門　笛の音も住のうにあり妙木のちやを法る
驚き　ぐ宝幸色一笛
朗詠　玉帚をやよ人吹ろ
舟よりる入江乃月の新を
吹ますよ抱の風玄笛の
草刈の笛氏音ぞたにそ
蕭索村風吹笛処　荒涼隣月擣衣裡

一詩　大原　抱花月酒琴　兼　狐山　屏風　洛雪
主客　月も今おぼろの入ほ水そへ面かけ春世すも住
愚茅　秋よりもぬるゝ夕ぐれの空も老士の詩

一発　春雨　賀茂祭　立石　兼　神子琴　笛
石菊　階　菊花
及白と思　男山たゝかすみて　おぼろ月夜の朝ぼらけ
名寄　川　九重より立まよひて乃雪ちとう春
立百番　淡人乃立姿　夜のさくらよに光そふ千代乃三川春

一謡　雛祝　白蓮　舟人　詩　鶯汐舟　章姫琴　笛

一碁　紫式部　中川宿　仙松虫　揚　歌詩　舟屋　受　灯
南まより帰
ほゝけて三春おもひ寸弁の梅乃指一おる志ら露
古堂ハ名てともの
山門中納言兼を
よめる乃場ゟよ句
ふ兼ゐる心のまにまにおりてゐまを

墨茅
未木
門　酒治世　神木化人　兼汲　樵夫　琴依　田植
住吉の岸の姫松　郭沫
山人乃うたひ遣ふ錦をいろくさ乃紅葉
堂の古代も偲ふ舟人
山堂ハ秋を松風琴ゝみ田川志川千代風ゝゝ

陳氏

灑雀　碁罷　嬉　無月　眠　遅聴　尽　砧

増援

一富（その）世人ところ岩ゝ山ゝ納ゑて万代までゝきみてほへて

まひり祢とおまゝの人乃集りれ富とよめるたのうり砧

一花辻　清見　吹飯　次广　明石　松山　築紫　梅　いちゝ記世
きくまき春令　八十嶋　釣舟　清衣　墨染袖　ほゝる舟
茶花　山奥　館　東路　鄙　鏡　南海　周公旦忠
家宿の西橋ゝくゝ　ゝにわゝゝ人物り
浅まやいうる少のむゝ　ゝまれとも世ゝ辺
ほゝとふゝ子にて　あれ　象深や　雷の　谷にあまゝ　家　祢

一市　篤广　安信　布留　立田　住吉か深　うる海　桐模やゝ
飛多　久介助　大原　玉章　行庇　岩車　巡礼　親
川舟　陣　時めく人の門　笑助　酒売　菓　梅

ゐる
ゐる
ゐる
来

一物見塚　神示　葬　丑忠雄
菱家　前権山崎より東へ行く事二里余
おほくの人も此所にて物見をなせしゆゑ
此名あり

市人午　鴉　鵲　法々同一声　鴉市　蛍市
蝶市　灯市　扇市

一方遠　衣紋坂　山里　中川常　物いと古　来　漆絵
しほ撰　名所　きこえし方　婦人　かたらひ　君こそ　思ひたまふれ
名所　古仏　友秋八萩の芝居　朝ほらけ　人の神かぜ　方遠とは
初六　来　あふ事のこころへの方たち　玄のわたくし
来　大丸　逢事なき方々　ながめくらしぬ　一枚めくりの君となれて

一唐土　吉野　三位局　床浦　松浦　築地　高野　千代浦
塩屋　築波　弁財　富士　琴　仏　大海原　学文　錦仲人
庵主の余香の浜辺　羊
浜辺於

於玉　もろこしめくるよそや幸詩の連よ序志かな
未来　舟おそ〜えりやつ〜對するよ　もつぬ新羅の山そ見えける
年中　〜〜よう作〜〜まれさいおしいの色八私庵主はた〜〜
初右　おもほて神る渓のさいくらの色を乃〜舟のよう〜
春雨　染ほ分るハ庵主より山颪〜来り〜吉水絵ほとをる
砂風寺分るハ庵主にうめ〜ろきい泊閑の刹生心乃形ち〜
成路よ〜時台的刻八津と山幸あり十種の寶物を泊閑よりる

一　筑紫　次広赤名　久宇関　松浦　宇佐　沖縄　古辻
綿舟舶　旅牛　菱池　玉菊心
風吹て藻塩のうち折なひき思ふ方にはれてうハ切
於　未〜〜夏の涯よいる原まる乗にうと整る寸降ちる白雲

於　佐〜ちる寸ま父乃社をきつ〜ろ私の父乃心ち社ろれ
彩撰　友舟ろ〜〜もいせを満おろの月一泊ようき泳をろ
ろる

一　心つ〜　不叶恋　舟　花乱　企救池　松浦　歳菩
壬二　木の百おろ庵主舟のうに泳も心つ〜の月八ろ乃
狭衣　数倭度ぬ夜八うに心つ〜ろ明恋月
於　皆人八心つ〜よ私ろ浦をかきそろる父宇関雪
袋草　笹夜八東路ろ〜ろ中つ〜心はく〜ぬ名よ社ろ公原

一　東　佐東中山　染波　麻溝　武蔵　白川　逢坂　不破　鈎
杉山梅　駅　外羊　八寸山路　志水　北条篠原　羊羹
月　松坂須　右辺　旅　住吉水　和宇浦　高師山

於を
綾ほ撰
風雅
於玉
江物名

一 歳設
綾於を
於玉
纏

東方の空も八雲立
行とゆるおとこやも
山貴くて寸侍ふ東方
あつまちや焼をさ
東まやーまれさ

有乳山 旅人 を方人 坪ノ 赤立杣
帰ふべきこの旅人侍俺て
いうそうのうち乃雲の後ろん
秋乃夜に ノ

一 田舎 雑波 當ち男 銭 敷名火 茅垣 門田 営 吾妻
たる 在 をりを 四可
あきやまの
物て
なるめるまや

一 鄙 汝設 荒神 旅衣 電漁 夜る 春前 笹や 茅や
あやめ 田伽 たる 国司 小貴 君を作 茅垣
天さ高ひなる月乃ぬきのれをいて 紐を解もおけ
橋の若い むりの神乃 市にありいよそーひなの中乃
天さ高ひまれ 社乃 市にありいよそーひなの中乃

一鄙ゝ市 炭竈 星 賤ゝ心

一古歌 恋愛 雑沿 石上 布留 奏良 春卑 飛鳥 柳
勅撰
愚家
朗詠
みそぎ川久木乃杭々ゝ人のうたゝかたゝ
たゝ此の神の寄そうりもゝ一ゝ移ゝゝ吾妹
緑艸如今 農業 農荒 紅花 定 昔管絃家

一産養 孟 碁 猫
於玉
ゝ七日よ成まゝゝ祝の祝を思ふやれ
ゝ
姫小松八千年ハ宝に仕ふるとも
千代を引る心の中乃まゝ一北ハ後をぬ家の風にそ靡ふ

ゝ
千と始ゝ原二そよれ松ゝ八千年ゝ祝ゝ末も書ゝ仏ゝ
ゝむ名露ゝ白ゝ衣ゝよゝゝ千年の秋ゝ立やゝくゝむ
七日行渓の雲ゝを一ゝ引ぬゝゝもゝかゝへゝる
をと支ゝゝゝやゝ一ちゝを婦宮の養ゝゝゝ娘ゝゝ
ふ

一硯 亀山桜 蓮法 於業 宝門
ゝ仏 め春七ゝるに心ゝなくさまゝゝくゝ一ゝ秋ゝ
ゝ六 和ゝ一浦ゝぬくの人ゝ業の海中ゝもゝを業塩ゝ
朗詠 蛛細鎖 硯 蝸 畫

一学 歌詩琴位 仏名 字絵 離沿舟
学文のゝ行ゝゝん ゝ他の中沿ゝ一独歩一物を同ゝ

一 手習 小野篁 觀音寺 琴 物怪 歌 難波津 淺香山
淺香 かくて後世の中にめでゝ
風雅 いとなく覚ゆる歌ども
仕撰 花山法皇 人丸 紀貫之 伊勢 猿丸大夫 慕 石山 音恩

一 草紙 雨 住吉 歌人慕 石山 音恩
人丸 紀貫之 伊勢 猿丸大夫 慕
仕撰 花山法皇 人丸 紀貫之 伊勢 猿丸大夫 慕 石山 音恩

一 太刀 塚 旅人 武士 君子 近衛
鞘 古六 ㄇ 未

一 劔 万 ㄇ

一 太刀 山中山 仲哀帝 住吉 旅人 武士 君子 近衛
鞘 向ひの岡 天乙女 ㄇ
古六 刀もて書くやうに 小野篁 ㄇ
未 山深く松のまもよし 山深く松のまもよし 八今しもぞ

一 劔 弘法大師 弁才天 北嵐 布留 君子 氷室 姫山
万 弥陀号 ㄇ
ㄇ 庵室 古屋を越て 書き ㄇ

雛含紅顔笑胸磨三毒劔口詛紫蘭
心放十悪箭　北風利如劔

一弓　於春未　矧十槝川

槔多狩採衆弥乱箙薛男恵葛蒲
四方山の人々窓とうちを神の市まなぶ
照射夏と秋の山辺まで入人のうれ矢風に紅葉ちらん

一絲　矧十槝川

信吉呉陽行岡志了柳次广屏風千句海老
花滝治ほる々牛め希也霞照る人
前佛ま向児人一ノ礎灯芭蕉玉章
俤恵ふるめつまよ添んいとまくは形えことも
絲よ書と業も及なし芝ふる花入姿祖まんを持

一杖　久撰矧十未矧後吉

位山男山吉田里逢坂亀山常盤山奈良子百
君が齢まで雲井庵玉椿四葉
つく杖よ六十越行と舞よりも千と分の坂八まで久しく
百年のをつく杖乃世よ孫よ教てもそゆる老の坂
老らくの腰二まをふ子あと走卯杖をつ八てなをと迎
せき据八差八ふてふさゆ一言とる杖へかく

一支頽　池宮蒲　如意峠
古今　なけきこる山とうち成めたてる枝のさえつれなき
古六　身をうき恋よりの峡物思のたねをわけつつえつつを

一樽　志加の瀧　吉屋　澄垣焼　吉蝶子　婦女別
撰　名石　形ち　古今
古六　ほにくるいのもみつくみなる心のすえうつろ
未　水のうへかくしおもへと常氏の
極つゑ千里の雪もいとゝ積もみはてぬ

一鞠　泊世　春花　桜　柳　小弓　鈎座　富永　名香　政酒
未　又沖休　秋文　白川宿　玉砂　狗猫
原氏　花の枝にかけて数をよまりの春のまゝ行し雨林之
余行こゑにおくれぬ数ハ志つれとも若ゑみ法

一金　陸奥　皇代　柳　菓　山吹　蛍　遊釣　玉藻君心
月清　ふる世まうちなうたゝ成物ハ仏とみちくこゑのうち
未　白ゝ〇と今ゑ咲まふまのうち氏若ふ有原
門　又原友にめうゝきの枝ゑ入今氏のちぬ指々

一贊　酒弓子　玉金　佛　女
未　やまとにもぬのまゝ氏の剣ハ玉ハゝ

一屏風百首　燈ちかき　宝焼　人待里　音をぬ渕　鈎の仏
女房おもてにこにこよりつゝら
撰　文を手にとりくるくるまき遠人乃室とそなて非へき

一屏風百首　燈ちかき　宝焼　人待里　音をぬ渕　鈎の仏
ひな松　琴山　庵ち　笑　地獄絵
神さひ　文仏　門　方そ　山ふ
山ふもとをたゝくるくるまき遠人乃室とそなて非へき
たゝくるく屏風乃浦の素堂よりの書簡をとりいたし
屏風よや心をたゝくるくるまき遠人乃室とそなて非へき
琴のもとへおやまきをとに屏風分ち八巻の始皆主我
前荷うゝんとをり時のるゝ

朗詠　山似屏風江似簟叩舷来往月明中

一服皇　服皇枝トモ
撰　げうそくを押へてまきる三万代は花八ルゝを心乃ゝた

一薫　七夕　玉篇門　雲林　女　蓮葉　荷て
撰　未　門

一雛ひなの元祝　屏風　絵
　　門　　風さえや神のおくりを松の内

一小まき巻　衣打　鈴虫　紙屋　神楽　山里　梅　柳
　　綾右
　　夫木
　　狭衣

一涸布　玉川　布晒渓　宇治　竹生島　竹生島
　　八橋山　月光

一帯　春霞中山　細谷川　康頼　伊吹　石　南風　山蔵　行幸
　　帰雁　生駒子
　　綾於
　　時とあれば花田の草代中ちかやうなるかと見れば須弥
　　松川　め帯七折重ねるを帯にして流よ枝ふきかへされ
　　夫木　白雲の玉乃帯をするかきにて八雲立つ出雲八重
　　門　ひつ帯のみしめの下にほのぞいて結ひし紐未久しき
　　門　君やさはひとをの下にほのぞいて結ひし紐未久しき

一錦　立田　床裏　桂子　小車　萩　高雪　紅山　蓼

風雅　ゆふされば野べの秋風身にしみてうづらなくなり深草の里
陽川　
玉吟　
未来　

一玉庵　玉も　友も　め弟七　梅　ひる　花　見　海山　花業
新勅　蔵　飼　栗　行も
新拾　ゑて　鷺のさ
新六　
石六　

一茅　
未来　
門　
門　

飛山　そこの山　茅渟海　行者　無住　業　落蒲　桃実
万代　万代をこめて原茂乃茅生をそ人乃老をおくるてふ八ひく
つくも心ながちに茅おひしけきうすと八をしむ
まてまて仏のことく
剣最阮嶺天台山へ茅を取まゐり桃を元食一一里
往行仙女と逢半年計まゐりて四里に過ぬれど七世
乃子孫に会ふ云々云

一朮木　
玉栄　

行基　柴波　小野　大原　石上　寺　谷上　岩橋　山里
芳免や　庵　覚　花雪　桜　原家　ます男　侍
蔵乃つら栄　山ちさ　桃　杜　笛　うみ子
朮木こゝろを山人に語るこゝろまつをくれおきかえ日月

風雅
秋はれ
末
門
門

山人の爪木よさせぶ生つ一ふるやまおろし
山人乃つまこもる爪木の追風よさほりわしかうき芸入一雪
名月和哥うそ原山人乃つま木のよよさや原和哥
なこはきぬ乃唐ハ仮油のいまてう秋の妻木こゝろ乃
賤すら爪木おろしと風起て一衣油まくらつ

砧 嚢 家々 發 樵 壹 處々 同

一 木川 駒 賤ヶ唐 砧杜
堀川
末 麻ノ里千木川木の投をたなうよつまとれて咲夕娘哉

一 堀木 久米路 名取川 三笠山 三笠 春日 雲居 恩川 関川

嚢
門
秋
末
名
哥

暁ノ山 深雪杜 岩ノ山
谷 岩苔
年ふれと春の山乃桜哉
賢人書乃山乃桜哉
堀木乃下よやうな梅哉香をたにも雪のよを
杉お春乃名とや山法乃春除ふ乃ふりわ末
堀木乃ふりつゝ雪ハ松にもなつ山雪残哉ところゝれ
君ヶ代ふ千ふ川のむりわ末よ氷乃つゝに春を待乃

一 松火
秋
歌六

旅人のそもゝ杜そ原杜
小車乃ふのそれ杜そやそも也悪そも尽亜只等乃

愚案　いつに打おどろく更一衣も打九きぬ乃内ろ衣一き

一麻衣　妹背山　六角小町　浅茅田子　埴安　佐士　女郎花　秋萩　狐葛葉　木賊刈　山賤　山住　松風　倭人

一衾　衾六　夜具　蒲団

山住　扇　松風　山伏　雪山人　衣も雪山　みの八重山

山深く行こゝろのほそ衣よもの物かなしきも打ひとり哉

行かいくよ雲衣孤の衣けし山ろ〳〵と吹ろ

一糸　素　生糸

一布　布　滝　七夕　琴　笹　日乾　新潟　蟻通古事

河内女乃ほ染の手ぶくろをもとめぬ君ゆ

住吉山ろ〳〵も秋乃笛吹ほ染のころもでかろ〳〵き

一ヌノ　麻衣　八重ざくらの代衣ハ春乃時雲乃代ときろ衣し

山里ハ柴の戸ぬ寸と来ぬ寸よ

雪乃門ほ雪をきこゝろとも平原公芳代ころも梅の袋

袋のヌノ乃ころ衣をれもろ〳〵し女の神ほねさろ社七夕

元日二衆のきこいのこゝろ乃ほおろうらきを洛白あ

洛東乃ころ氏志乃ころ衣打きり〳〵素来よろ〳〵おとろれぬほ

梗衣

洛東

一蓑　蓑着て人を分ん心鬼　鈔
　　まま　着蓑を神をたのむ
　　旅川　ケ月の山家を
　　今後　やまぶきの立所よきかな
　　錦繍段　紗裏無奥無酒銭　酒家門外口流涎
　　筏回欲解蓑衣當　又恐明朝是雨天

一家風　私家浦　高ケ杜　依保　庵表　橘　青次　琴
　　歌神仕　呉井　氏末　花　桃　菖蒲　いそ
　　めよとのちの人ほそく
　　旅於　そうかくも思ふらむもの家の
　　鉄砲於　家の風吹こゝにしと笹の
　　いろこほろ書も付ふ

一塵　床林　枕　床友　蔵　理井　硯　机　ふ　麻　ゑや　機
　　云の説　塵とうたよみ
　　れうを云云乃家を家
　　風雅　元ふうも塵ふまゝ深神あな月のふうも伊ふ苦き
　　山家　是ある接の上に居ちうを思ふくや
　　門　あゝそく庵乃義を氏おきふ成のちとぬぬ思ふ

一棗　朱山白川乃死
　　山家　爰をえゝゆる心ゝ山桜むゝふかゝ原下ふるゝむ
　　愚案　例ゝゝゝ岸の青柳お折ふ書家ゝゝゝふ水

未　ひとつの雲よ永きを朝日さす山の法と成よき

一西　愚案　ますの林下　おのづから弓なりなりの松の葉かな
　　永房　秋風も谷の氷も鐘乃音もおのれが西と限るなりけり
　　□　西行　舞ひ出でよ秋をしるべの月の雲さぬ心の澄めるまゝ
　　□　さぬ　半ら氷る夜の月

一南　千首　愚案　何となく心ぼそさは南吹く風の音にぞありける
　　堂たて一岸のうらわの舟のおけなのうら
　　□　夜流のまゝきて共と思ひ深ハ

未　□　未をとゞめる羽田の南志めりの弁世の花と雪降ん
　　□　立のぼる南乃雲よ中〳〵にそれもきけゝ鳴音よたつ
　　□　行雲の若うらさん雪ふりて南さえよう〳〵なれ吹
　　□　行七ケ原雪柳乃糸よりも南や北のむそうゞ入
　　□　卵子的一処の辰さまの雪氏未まやゝの草乃室
　　□　を方やゝこれ行て未乃炭ゝ海烟立
　　□　伊豆の玉山乃南よ生る湯のそやゝ〳〵神の雪
　　□　陸奥乃白川越て別ふ一ひつ一さ原一行と春〳〵

一北　愚案　早一越路大広時雨風
　　日影ふぬさらの軒乃落葉の雲山のこゝちこそすれ

〃　椎の下にて　小ぶかうて吹風の涼しさ　かぶと一つ乃うえに花
　　　山水のまのあたりのこうばしきくに恨こそよるに雪降る寒き
　　　かしのまにも紅葉す実ぬ原に山のおくれ小よそをむらくに
〃　　日ぬめ庭桜雪ふるごとちるに旬ふ実乃梅うえ
〃　　百歳や大門山元丑寅の届なをわへのほそきおやさとて後つる

一　鶯の　春日　仏　幸彩波
　　壬三　　　　　　花蓮
　　千載　　うの山ぢを本栄に書垣乃花乃枝
　　新撰　　いつくまでの宮ぢやと生乃氏寄崎
　　　　　　乃一乃山高ぢ乃夜をよそ花を春乃海乃おくに原

一　千歳　　ちの為仕　歓迎同位時阿私仏会
　　　　　　北列　君を行杖坂　熊小松
　　　　　　仕て法ヲ得給

水澄　黄河千年二清ト云コトアリ
　於玉　千と坊てこまむことに岩ゆくとやねやのきくに

一　ちぢ　世乱　行方　菱　白虹　平　帝位おろ　宇氏幸路
　　深谷おう乃心

一　令泰原　歌　詠　古土　神木　祭
　　秩衣　　うぐひすと申し菱とおもふくや笑こおいすろくすると
　　山家　　あらそふものとかぎ平ぢ基命をうたたなぢを鴻雁の
　　　　　　おもこにえ次ふ浦と云こ名ハ松下ろちえ人巴

一　祖神　松七ツ　芋塚　春　春山行客　平　宋　劉列

鉄汁　蛍　雪小舎に宿て
山家　瓦　稲の雫
綾杉　夫木　行くへもしらぬ恋の山ごえ
風雅　玉葉　深草の山乃をその

一野を
夫木　時雨つゝ
　　ゆきかふ人もまばらに浦や成ぬらん（上云ニ）

一鏡向　桃　落洞　次ア一ヶ　池舟　山名

一鐘音　茅　鈴　舟錠

一裏　旅　天人　老　音思　文仕　例ちゝ　君子を乃原
　妹背の中を川　仲の戸類
　寺　思きやいちやも函ふおとゝ（ママ）縄て渓七ゝ

一子ゝ　小山　窺兄　市　行乞　詩

一原よ宿世　（ママ）　親のさうい　緑和妖
　不和　行も　（ママ）　心ゝ　（ママ）

一鬼　谷　雲一伴豹　安達　未一連歌　君ノ恵
百　人屋　蓬宮　須磨山　歳暮　君ノ恵
某氏
かくれ
ふる名を
みつ玉の年を
深川　永さ
ま
門

一詩　詩の心乃文林
詩六
ま木
門

神入音
ぬ止
之志
詩の
詩六
ま木
門

三體　犬　随　鶴　去　遊　詩　洞　龍作人　来　向　大　還
朗詠　遊　箏　未　抽　鳴　鳳　管　盤根終點臥龍文
門　帰　嵩　鶴　舞　日　高　見　飲渭龍昇雲不残

一四十

紀乃文則司たまりて
ぬることくいかゝまし

今まてはをとらぬ花乃さかり年切に
万代のあるかなぬ白菊
門　四十おまけ
家　万
琴　まりて
門　亀
盤　庚の山乃岩根よ
葉　乃深にあらん

紀は　添　ふるさともぬれぬ山さくら　はな　の雲を辛うて
はな　君　たえ〴〵里人の杖もとゞかぬ雪ぞよ　志〻

一五十
風雅
綾於
門
紗六
冬

ふもと迄ひま求ふ谷そよ仮油火　若共いそ
ぐ〳〵行ふもの井ぐれさの水とくとて一ぱい
きゝよいたゞむ行ふ　立寄て五十到める志うす
ぬの果ぶ五十篠ふ乃翁さも梅かさん人なさうめて
花ふ遅る月日ふ名ぬれと云て〳〵可志ふをく等

一六十
愚亭
むらひ行六十の坂ふをられてあふれも雪を見に後〳〵

一七十
志三
古今
愚亭

七十ふ花の枝に信ふう〳〵志よふあ三せとやはを仏事
春ふそ〳〵ふれよ咲梅のお君の千と野のかさ〳〵とうふ
百とふ〳〵三十年にうぬ志村　十四ぢ　小もうふ

身界
紗古
綾よ撰
あふ
紗古撰
綾古
千載
綾千

九市里のこゝろへの椿ふ正ふをよ六十の友ハ折てやこゝねや
安ふう六十余ふのう〳〵ふ色ふ育あうハきふ色ふ雪
あふ〳〵花の〳〵ふ六十ふ志ふ〳〵すふ六十の差ふ孫ふをうふ
六十ねまん令をす愚ふの秋乃雨をきう〳〵ても世ふうふ
乃世よう六十ふなれぬさ乃月死生の山ふも面ふ〳〵ふ
化よう〳〵差にふ〳〵ふもかうぬ六十ふにう〳〵ふなよ

綾於　七十九年ゐまで鈴鹿川と伝ひ
彩古　七十にしての淀松あひぬれど千代の跡をば打下久しき
六帖　七十よ及うらかに杖をれどこのをみもたしかるべき
玉栞　老の身八そや七十九そちかの老う老き

一八十

彩古　八うらゐまで西のむろを待つ伝荒一原はたの
綾於　天河八千よかふ老のふるまよおひぬるまで
八　　ゐうこて八十の老よあひぬるまでよとての今こうめ
切燒　和歌浦よ八千ゐまでの夜の月のそを思老ぬるまでぬ
友う　千早振神や切うんつくうに千年の坂をふぬるまでぬ
綾於　あう寸そて八やよちよぬ行まさのこいう老よふきうん

お作　海のまゐおそ切一ふれんかうらもうもうけぬ七十八十も
記　うとよあるそのまよふくれ

一九十

彩古　君よふふよと約のうすをかつて重てれうてのち代やろん
於玉　九十にこもめる年の老乃花九求ももにうおろうまふ
風雅　百とせよ十年及こぬ苔乃花ぬ袂うよのこふ包うめる
彩千　九十よ満める老乃時よ君ふのそもぬるかいあうて君うこめうふもの
彩は　万代を年の杖こう変てつる冬ーくをに君うるめにも
玉栞　老乃法花志川うあれ君の代もれすまてこ川乃淀の野
彩千　花山ふ寿をこめる百代久よ寿

君のいはゝもゝ川の長久を
一百年
後世を
歌
於を

三千世界のあらゆる宝物をもてかぞへとるとも御代久々
百年よをつくんでも君乃よろこびをそへつゝ百年乃壽の初ハなをまさる

連歌安心集終

故稀年齢翁重清
自筆書置者也

五月雨なをふりつゞく比来新の草まくら
日々雲霧のたゞよふ如く心も
又也行る柿本の人丸法師ことに一冊を神くく
よりつゝ茂山おく深く漕入まなんとするも
さまをつくり思ひとりつゝ雲井末の
景物の外世中乃あらゆる事を集めく

安心集を写し訖ぬ
ことよしとよろこび
と悼め閑こと
多くまさりぬることを

その玉まき節操をかたくまもりけるまことなるべし

云乃葉もいろくはくてのこれるみちはなるべし

寛延二季仲春初二日　長洲住　乾正豪

明治大学図書館蔵

寶暦八戊寅天七月　寺町草堂前　中井平次郎

皇都書林